

教育学研究科教員業績一覧

(2019年4月1日から2020年3月31日)

基礎教育学コース

小玉重夫(教授)

〈論文〉

小玉重夫「教育の質の変化・転換と市民性」東京大学教育学部教育ガバナンス研究会編『グローバル化時代の教育改革－教育の質保証とガバナンス』東京大学出版会，2019年8月，pp.99-109

小玉重夫「無知な市民は反知性主義を超えられるか」教育思想史学会『近代教育フォーラム』，2019年9月，pp.1-8

小玉重夫「デジタル時代のシティズンシップ教育を考える」法政大学図書館司書課程『メディア情報リテラシー研究』第1巻2号，2020年3月，pp.12-15

〈翻訳〉

ハリー・C・ボイト『民主主義を創り出す－パブリック・アチーブメントの教育』(小玉重夫監修，堀本麻由子・平木隆之・古田雄一・藤枝聡監訳) 東海大学出版部，2020年3月 (Harry C. Boyte, *Awaking Democracy Through Public Work: Pedagogies of Empowerment*, Vanderbilt University Press, 2018)

〈口頭発表〉

Shigeo Kodama “Education and Democracy in an Age of Post-truth : Discussant”, World Education Research Association 2019: Focal Meeting in Tokyo, 2019.8.7. Gakushuin University

小玉重夫「現代社会における教養と市民的自治 指定討論：政治的教養の観点から」日本教育学会第78回大会，学習院大学 2019.8.7.

Shigeo Kodama “Education and Citizenship: Empowering People for a Global Society : :Discussant”, The 78th Annual Conference of Japanese Educational Research Association 2019. 8. 8. Gakushuin University

Shigeo Kodama “Citizenship Education in Japan”, The International Conference on Citizenship/Social Studies Education, Teaching & Learning to be held with the cooperation of the Graduate School of Education, Hiroshima University, at Tokyo on the 21st & 22nd September, 2019

村上祐介・小玉重夫 「自治体における保育の質保証とその政治・行政要因—全国自治体調査の結果から—」日本政治学会2019年度研究大会報告(自由論題)，成蹊大学，2019年10月5日

Shigeo Kodama “Discussant : Possibility and Difficulty of Translation - Issues related to citizenship and border crossing”, The 62nd Annual Conference of Philosophy of Education Society of Japan, 13th October, 2019 Hiroshima University

〈その他〉

小玉重夫「無知な市民の可能性に向けた教えることの再発見—日本の文脈から—」教育哲学会『教育哲学研究』第119号，2019年5月

小玉重夫「学校部活動をめぐる問題」東京大学法律相談所『第71回五月祭模擬裁判 夢の末路』2019年5月18日，p.22

小玉重夫・菅間正道「高大連携対談 正解のない問いに立ち向かう，研究と実践の場を結ぶつながりを」自由の森学園中学校・高等学校『季刊 もりのあと』No.26., 2019年7月，pp.6-10

小玉重夫「「愚鈍化」の構造に抗する教師—書評 福田淑子『文学は教育を変えられるか』』『季刊 コールサック』99号，2019年9月，コールサック社，pp.326-327

Shigeo Kodama, Kaori Kikuchi, “Editorial Preface Special Issue: Education and Politics in a Global Age”, *Educational Studies in Japan: International Yearbook*, No.14, March, 2020. pp.1-3

田中智志(教授)

〈著書〉

田中智志(単著)，『教育の理念を象る—教育の知識論序説』，東信堂，2019.06，総頁数147.

田中智志(編著)，『教育哲学のデューイ—連環する二つの経験』，東信堂，2019.10，総頁数348.

田中智志(編著)，『温暖化に挑む海洋教育—呼応的かつ活動的に』，東信堂，2020.03，総頁数258.

〈雑誌論文〉

田中智志(単著)，「〈鏡の隠喩〉のなかで—脱構

築できない無垢], 『研究室紀要』第45号, 東京大学大学院教育学研究科 基礎教育学研究室, 2019.07, pp.53-69.

田中智志 (単著), 「海洋教育がめざすもの」, 『世界平和研究』第45巻第4号, 平和政策研究所, 2019.11, pp.4-5.

山名 淳 (教授)

(著書)

渡辺哲男・山名淳・勢力尚雅・柴山英樹編 (2020) 『言葉とアートをつなぐ教育』晃洋書房, 総頁数200 (山名淳「カタストロフィーのコミュニケーション的記憶が創られるとき——「原爆の絵」プロジェクトにおける〈語る／聴く〉行為と絵画制作」, 100-134頁)

岡室美奈子監修・飛田勘文編 (2019) 『コドモノミライ—現代演劇とこどもたち』早稲田大学坪内博士記念演劇博物館, 総頁数95 (山名淳「演劇を通して不条理と出逢うこと——朗読劇「夏の雲は忘れない」に教育を想う」, 88-93頁)

リット, Th. (2019) 『弁証法の美学』(小笠原道雄・山名淳訳), 東信堂, 総頁数112

(雑誌論文等)

Yamana, J. (2020), Catastrophe, commemoration and education: On the concept of memory pedagogy, *Educational Philosophy and Theory*, Vol. 52, Issue 13, pp.1375-1387. To link to this article: <https://doi.org/10.1080/00131857.2020.1773795>

山名淳 (2020) 「「新教育」的小学校における「郷土」「国家」「国際」——成徳校における「文化科」の特徴を中心として」渡邊隆信編『新教育運動における「国際化」の進展と「郷土」形成論の相克に関する比較史的研究』(平成29年度—令和元年度科学研究費女性事業 (学術研究助成基金助成金) (基盤研究 (C) (一般) 研究報告書), 56-72頁)

ヴィガー, L. (2020) 「記憶・想起と人間形成」(山名淳訳) 『立教大学教育学科研究年報』第63号, 167-177頁

渡辺哲男・柴山秀樹・山名淳 (2019) 「(研究状況報告) 言葉とアートをつなぐ教育思想: 「詩的な言葉」「想像力」「記憶」を手がかりとして」『教育哲学研究』第119号, 134-139頁

(学会発表・講演等)

Jun Yamana (2019), Catastrophe Museum as Educational Institution of Cultural Memory: The Case of the

Great Hanshin-Awaji Earthquake of 1995 from the Perspective of Memory Pedagogy, Third Annual Memory Studies Association Conference, Complutense University Madrid, 25-28 June 2019.

山名淳「教育学から見た「成徳教育」の一風景——教育・哲学の実験場」[成徳教育の「昔と今」に出会う] 講演会, 2019年8月31日, 成徳公民館

Jun Yamana (2019), Encountering Absurdity through Theater: An Essay on Remembering and Education of the Atomic Bomb in Hiroshima, Workshop: Remembrance – Responsibility – Reconciliation: New Challenges for Education in Germany and Japan, 2019年10月2日, 上智大学

山名淳「研究討議 HIROSHIMAという記憶の継承と和解 司会コメント」教育哲学会第62回大会, 2019年10月12日, 広島大学

山名淳「厄災を表現すること——「原爆の絵」プロジェクトにおけるコミュニケーション的記憶と文化的記憶」(2019年度神戸市外国語大学魅力発信事業「原爆を記憶する——「文化・メディア・教育」」), 2020年1月14日, 神戸市外国語大学

山名淳「翻訳者としての教師——「集合的記憶」論から考えるコーディネート時代の学校教育」2020年度島根大学現職教員研修シンポジウム, 2020年6月6日, 島根大学教育学部

山名淳「「探究」体験とはどのようなものか——研究の現場感覚から伝えたいこと」(令和元年度「高大接続改革対応事業」に係る生徒の思考力・判断力・表現力の強化のためのハイレベル講座), 2020年2月10日, 鳥取県立倉吉東高等学校

山名淳「メモリー・ペダゴジーとは何か——「分断」による暴力」問題に親と学校は何ができるか」[親性研究会] 2020年2月22日, 同志社大学

比較教育社会学コース

恒吉 僚子 (教授)

(著書)

Tsuneyoshi, Ryoko, Hiroshi, Sugita, Kusanagi, Kanako & Takahashi, Fumiko eds. *TOKKATSU: The Japanese Educational Model of Holistic Education*, Singapore: World Scientific, 2020.

(分担執筆)

Tsuneyoshi, Ryoko. "Discussing the "Multicultural" in Japanese Society." *Education in Japan: Reforms of Education Governance and Quality Assurance*,

edited by Omomo, T., Katsuno, M. and Kitamura, Y. Singapore: Springer, 2019, pp. 177-195 (Ch.11).

恒吉僚子 (2019). 「スタンダードとテスト改革の20年—アメリカのメリーランド州X郡R校の事例を通して」 東京大学教育学部教育ガバナンス研究会編『グローバル化時代の教育改革—教育の質保証とガバナンス』東京大学出版会, 2019, pp. 143-153.

〈雑誌論文〉

恒吉僚子 (単著) 『国際的に展開する「日本型」教育の「先進性」と「後進性」』『武蔵大学教職課程研究年報』, 2020, pp. 90-93.

恒吉僚子 (単著) 『「甘え」の日米比較—日本は多様性を認めた「開かれた甘えへ」』『世界の児童と母性』 86, 10, 2019, pp. 17-21.

〈発表〉

2019年9月15日「Tokkatsuの国際化とインドネシアでの展開」日本特別活動学会第28回、公開シンポジウム「未来の創り手を育てる特別活動—『ゆまーる（協働、助け合い、相互扶助）』の心に着目して」登壇者、沖縄。

2019年10月22日 International Conference on Educational Leadership and Management (1st ICELAM 2019), (“Leading Schools in a VUCA World”). October, 2019 (基調講演)。

2019年10月30-31日 “The tokkatsu framework: The Japanese model of holistic education.” Indonesia, 2nd ICTL Universitas Khairun-Ternate. (招待講演)。

本 田 由 紀 (教授)

〈著書〉

本田由紀 (単著), 『教育は何を評価してきたのか』, 岩波新書, 2020, 総頁数253.

本田由紀 (共著), 『日本のオルタナティブ』(金子勝氏、大沢真理氏、山口二郎氏、遠藤誠治氏、猿田佐世氏との共編), 岩波書店, 2020, 総頁数195.

本田由紀 (分担執筆), 「職業スキル形成のガバナンスをめぐる多様性—VoC論から見た日本の課題」 東京大学教育学部教育ガバナンス研究会編『グローバル化時代の教育改革—教育の質保証とガバナンス』東京大学出版会, 2019, pp.231-242.

〈調査報告〉

本田由紀 (共著), 『人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査 (第1回)』, (永瀬伸子氏、上田貴子氏ほかとの共著), 2020

〈学会発表〉

本田由紀, 「就職氷河期世代の“見えないボディロー”—職場のスキル水準に注目して—」 日本社会学会第92回大会, 2019, 東京女子大学

〈その他〉

本田由紀, 「日本社会のこれまで・いま・これから(2) 新卒一括採用は変わるのか」, 『生活経済政策』 269, 2019, pp.32-33.

本田由紀, 「日本社会のこれまで・いま・これから(3) 大混乱の大学入学共通テスト」, 『生活経済政策』 273, 2019, pp.31-33.

本田由紀, 「日本社会のこれまで・いま・これから(4) 理念なき「大学無償化」」, 『生活経済政策』 277, 2020, pp.40-41.

橋 本 鉦 市 (教授)

〈著書〉

橋本鉦市 (編) 『戦後日本における女子大学の組織アイデンティティ』 広島大学高等教育研究開発センター『高等教育研究叢書』 153, 2020年3月, 全103頁。

橋本鉦市 (編) 『専門職の質保証—初期研修をめぐるポリティクス』 玉川大学出版部, 2019年9月, 全330頁。

〈論文〉

石井美和・小原明恵・橋本鉦市 「保育士の専門職コンピテンシー：習得時期に関する養成機関・保育所の認識ギャップ」 『東北文教大学・東北文教大学短期大学部紀要』 第10巻, 2020年3月, 59-71頁。

橋本鉦市 「大学のミッションステートメントに関する一試論—大学界のロジックと組織アイデンティティ—」 『東京大学大学院教育学研究科紀要』 第59巻, 2020年3月, 61-67頁。

〈国内会議記録〉

日下田岳史・谷村英洋・小島佐恵子・橋本鉦市 「大学教育の何がアウトソーシングされるのか」 『日本高等教育学会 第22回大会』 2019年6月8日, 金沢大学。

生涯学習基盤経営コース

李 正 連 (准教授)

〈著書〉

李正連 (分担執筆), 「社会教育・生涯学習」, 北村友人・佐藤真久・佐藤学編著『SDGs時代の教育—すべての人に質の高い学びの機会を—』, 学文

社, 2019, pp.235-245.

〈論文〉

李正連 (単著), 「目覚めた市民が社会を変える」, 『東アジア社会教育研究』 Vol.24, 東京・沖縄・東アジア社会教育研究会, 2019, pp.2-4.

李正連 (単著), 「植民地期朝鮮における女教師の社会教育活動」, 『生涯学習・キャリア教育研究』 第14号, 名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属生涯学習・キャリア教育研究センター, 2020, pp.27-41.

李正連 (単著), 「第4次産業革命に向けた韓国の教育政策と学校教育の実態」, 『複合的技術革新が教育システムに与えるインパクトについての比較教育学的研究成果報告書』(研究代表: 北村友人), 公益財団法人カシオ科学振興財団, 2020, pp.24-36.

〈学会発表・講演等〉

李正連, 「日本の学校と地域社会の連携における生涯学習の役割」, 『第1回未来教育・烏山国際フォーラム』, 2019.7.4, 韓国: 烏山大学.

李正連, 「生涯学習からつながる人と社会～日本と韓国の比較から～」, 『令和元年なかの生涯学習大学』, 2019.10.17, なかのZERO西館.

李正連, 「日本の地域教育共同体と生涯学習」, 忠南教育政策シンポジウム『地域教育共同体の世界動向』, 2019.12.5, 韓国: 忠清南道教育庁研究情報院教育政策研究所.

新藤浩伸 (准教授)

〈著書〉

東京大学教育学部教育ガバナンス研究会 (編), 『グローバル化時代の教育改革 教育の質保証とガバナンス』, 東京大学出版会, 2019年8月, 総頁数304 (分担執筆).

日本音楽教育学会 (編), 『音楽教育研究ハンドブック』, 音楽之友社, 2019年10月, 総頁数248 (分担執筆).

〈論文〉

新藤浩伸, 「地域文化をめぐる社会教育研究の成果と課題」, 日本社会教育学会 (編), 『地域づくりと社会教育的価値の創造 日本の社会教育63』, 2019年9月, pp.139-153.

〈書評〉

Hironobu SHINDO, "Book Review: Adult Education, Museums and Art Galleries: Animating Social, Cultural and Institutional Change, by Clover, D. E.,

Sanford, K., Bell, L., & Johnson, K. (Eds.)" in *Adult Education Quarterly*, 69(1), 2019.5.

〈講演等〉

新藤浩伸, 「アメリカの総合大学での芸術実技教育」, 東京大学芸術創造連携研究機構 学内研究会, 2019年6月10日.

新藤浩伸, 「表現・文化活動と公民館の役割」, 東京都昭島市公民館利用者連絡会学習会, 2019年7月21日.

藤田博文, 入手千尋, 小俣彰男, 宮本俊子, 新藤浩伸 (コメンテーター), 「パネルディスカッション みんなでつくろう! 参加と学び合い」, 市民の社会教育研究所 設立記念シンポジウム, 2019年10月20日.

新藤浩伸, 「住民と職員と研究者の共同をどうつくるか 『月刊社会教育』 編集の立場から」, 社会教育推進全国協議会公開学習会, 2019年12月21日.

新藤浩伸, 北垣憲仁, 今井尚, 前田太二, 伊藤瑠依, 「博物館の原理に関する研究 空間・集い・経験 (1)」 東京大学ヒューマニティーズセンター第23回オープンセミナー, 2020年2月7日.

〈その他〉

新藤浩伸, 「生きた文化の担い手たち 秋田県・男鹿のナマハゲ」, 月刊社会教育, 63(6), pp.64-67, 2019年6月.

新藤浩伸, 「消えないかがり火 旬報社からの刊行によせて」, 月刊社会教育, 63(9), p.44, 2019年9月.

池上洋通, 妹尾浩也, 新藤浩伸, 「座談会 市民のための雑誌の未来」, 月刊社会教育, 63(10), pp.46-57, 2019年10月.

新藤浩伸 (文責), 「「表現の不自由展・その後」 展示中止の経緯と今後について」, 月刊社会教育, 63(11), pp.46-48, 2019年11月.

新藤浩伸, 「いつか虹の橋を」, 中央線, 76, pp.91-93, 2019年12月.

河村俊太郎 (准教授)

〈著書〉

河村俊太郎 (分担執筆), 『図書・図書館史: 図書館発展の来し方から見えてくるもの』, ミネルヴァ書房, 2019, 総頁数289. (三浦太郎氏との共著)

〈学会発表〉

河村俊太郎, 「学問的知識の形成史における図書館とその購入図書を用いた手法の可能性」, 『2019

年度日本図書館情報学会春季研究集会』, 2019, p.55-58.

宮内拓也 (特任助教)

〈著書〉

匹田剛 (監修), 佐山豪太, 光井明日香, 後藤雄介, 宮内拓也, ツオイ・エカテリーナ, ヴァフロメーエフ・アナトリー (著). 2019. 『ゼロからスタート ロシア語 文法編』, 東京: Jリサーチ出版.

〈論文〉

Miyauchi, Takuya. 2020. How to introduce instrumental agents: Evidence from binding in Russian event nominal phrases, In *Advances in Formal Slavic Linguistics 2017*, ed. Franc Marušič, Petra Mišmaš and Rok Žaucer, 179–204. Berlin: Language Science Press.

宮内拓也. 2020. 「日本語における出来事名詞句の構造とその受動文との類似性」, 『明日へ翔ぶ—人文社会学の新視点—5』, 公益信託松尾金蔵記念奨学基金 (編), 169–206. 東京: 風間書房.

宮内拓也. 2020. 「文章理解研究のための視線走査実験」, 『文脈情報を用いた文章理解過程の実証的研究: 学習者の母語から捉えた日本語理解の姿』, 石黒圭 (編), 125–142. 東京: ひつじ書房.

井伊菜穂子, 宮内拓也. 2020. 「接続詞による文脈理解の方法」, 『文脈情報を用いた文章理解過程の実証的研究: 学習者の母語から捉えた日本語理解の姿』, 石黒圭 (編), 143–168. 東京: ひつじ書房.

田中啓行, 宮内拓也. 2020. 「指示語による文脈理解の方法」, 『文脈情報を用いた文章理解過程の実証的研究: 学習者の母語から捉えた日本語理解の姿』, 石黒圭 (編), 169–192. 東京: ひつじ書房.

〈学会発表〉

Miyauchi, Takuya, and Masayuki Asahara. 2019. Statistical approaches to correlation between information structure and word orders of noun phrases in Japanese, The 16th international conference of the Pacific Association for Computational Linguistics (PACLING 2019), 11–13 Oct., Hilton Hanoi Opera (Hanoi, Vietnam).

Miyauchi, Takuya. 2019. Syntactic case hierarchy and generalized case realization requirement in Russian: With special reference to the prepositional quantifier *okolo*, The 14th annual meeting of the Slavic Linguistics Society (SLS 14), 11–13 Sept., University

of Potsdam (Potsdam, Germany).

Miyauchi, Takuya. 2019. Modification of a syntactic structure of Russian event nominal phrases and some consequences, The 28th annual meeting of Formal Approaches to Slavic Linguistics (FASL 28), 3–5 May, The State University of New York at Stony Brook (Stony Brook, US).

宮内拓也, 影浦峯. 2020. 「翻訳におけるQA記述の分析: 言語学的カテゴリーを手掛かりに」, 言語処理学会第26回年次大会, 3月16–19日, 茨城大学 (COVID-19対応のためオンライン開催).

宮田玲, 宮内拓也, 影浦峯. 2020. 「翻訳のための起点文書分析: 文献レビューの枠組み」, 言語処理学会第26回年次大会, 3月16–19日, 茨城大学 (COVID-19対応のためオンライン開催).

大学経営・政策コース

両角亜希子 (准教授)

〈著書〉

両角亜希子 (編著), 『学長リーダーシップの条件』, 東新堂, 2019, 総頁数216

両角亜希子 「大学の戦略とガバナンス (第5章)」 「組織のマネジメント (第6章)」 「人事のマネジメント (第7章)」 「施設のマネジメント (第9章)」 小方直幸編著 『大学マネジメント論』 放送大学教育振興会, 2020

〈論文〉

両角亜希子 「私立大学のガバナンス改革 現状と課題」 リクルート 『カレッジマネジメント』 217号, 2019, 14-19頁

両角亜希子 「教育と研究をめぐる教員の意識」 『IDE 現代の高等教育』 No.615 (2019年11月号), 33-38頁

両角亜希子 「私立大学の財務運営の現状—財務担当理事調査から」 『こうえき』 第7号, 2019年, 11-20頁

両角亜希子 「成果の上がる中期計画をどう作るか—『私立大学の中期計画に関する学長調査』 報告」 リクルート 『カレッジマネジメント』 220号, 2020年1-2月号, 6-21頁

両角亜希子 「大学の財務マネジメントの実態と課題—財務担当理事調査の分析から—」 『大学経営政策研究』 第10号, 2020, 1-17頁

〈口頭発表〉

両角亜希子 「高等教育政策の動向解説と貴学のベンチマーキング」 帝塚山学院大学 執行部対象セミ

ナー (2019年4月25日, 学校法人帝塚山学院法人本部)

両角亜希子「公立大学の教職員の資質向上の重要性」公立大学協会 大学改革支援研究会 (2019年5月8日, 東京グランドホテル 3階 桜の間)

両角亜希子「高等教育のグランドデザイン答申をどう読むか」県立広島大学研修 (2019年5月12日, 広島空港エアポートホテル・フォレストヒルズガーデン)

両角亜希子・王帥・井芹俊太郎「大学の財務運営の現状・課題・展望—理事調査から」日本高等教育学会 第22回大会 (2019年6月9日, 金沢大学)

両角亜希子「大学経営の現状と課題—国立と私立の違いを中心に」東京工業大学管理職セミナー (2019年6月20日, 東京工業大学)

両角亜希子「学習者本位の大学の質向上に向けて—グランドデザイン答申等から」神戸市外国語大学SD研修会 (2019年7月24日, 神戸市外国語大学)

両角亜希子「私立大学のガバナンス」文部科学省私学部勉強会 (2019年9月19日, 文部科学省)

両角亜希子「学長研究の概要」女性学長研究会 (2019年9月24日, 山形大学東京サテライトオフィス)

両角亜希子「大学がめざすべき姿—中教審答申を踏まえて」名古屋市立大学開学70周年記念イベント名古屋市立大学・大阪市立大学・横浜市立大学合同シンポジウム「大都市圏の3市大学長が語る大学の未来像」基調講演 (2019年9月27日, 名古屋市立大学)

両角亜希子「[大学の財務運営に関する理事調査]の結果報告」東京大学大学経営・政策研究センター主催 財務担当理事・副学長セミナー「これからの大学の財務マネジメント」基調講演 (2019年10月21日, 学術総合センター2階 中会議室)

両角亜希子「2040年に向けた高等教育のグランドデザインについて」札幌医科大学2019年度第2回FDセミナー (2019年11月1日, 札幌医科大学教育研究棟 D302講義室)

両角亜希子「私立大学のガバナンス改革の現状と課題」早稲田大学管理職セミナー (2019年11月14日, 早稲田大学)

両角亜希子「私立大学の新任学長セミナー 趣旨説明」東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策コース「私立大学の新任学長セミナー」(2019年12月26日, 東京大学伊藤国際学術研究センター)

両角亜希子「成果の上がる中期計画の策定・運用

—アンケート調査の分析から— 大学経営協会「2020新春講演会」2020年1月16日, 日本プレスセンタービル 10階ホール

両角亜希子「大学入試のあり方に関する検討会議 意見発表」文部科学省大学入試のあり方に関する検討会議 (第4回), 2020年3月19日, 文部科学省東館3階第1講堂

〈その他〉

両角亜希子「書評 山本茂樹著『世界のエリートが今一番入りたい大学 ミネルバ』」IDE現代の高等教育 No.614,72-73頁, 2019年10月

両角亜希子「書評 上杉道世著『大学職員のグランドデザイン—人口減少, AIの時代を生き抜く大学職員』(学校経理研究会)」『IDE現代の高等教育』No.617, 2020年1月号, 68-69頁。

両角亜希子「『学長リーダーシップの条件』に込めた思い」教育学術新聞2797号 (2020.02.19) アルカディア学報No.665

両角亜希子「入試より選抜した学生の教育に大学は注力すべき」『週刊ダイヤモンド』2020年3月14日号 (インタビュー記事)

教育心理学コース

岡田 猛 (教授)

〈書籍〉

岡田猛 (2019). チームラボの鑑賞体験 南條史生編 *teamLab 永遠の今の中で*, pp.75-83. 青幻舎

〈雑誌論文〉

清水大地・岡田猛 (2019). 芸術表現領域における熟達化 *生体の科学*, 70(6), 526-530.

Matsumoto, K., & Okada, T. (2019). Viewers recognize the process of creating artworks with admiration: Evidence from experimental manipulation of prior experience. *Psychology of Aesthetics, Creativity, and the Arts*. <https://doi.org/10.1037/aca0000285>

高田由利子・石黒千晶・岡田猛 (2019). 音大生の演奏における表現の自覚性尺度の作成 *音楽知覚認知研究* 25(1) 21-28.

〈国際学会発表等〉

Okada, T. (2019). Inspiration and artistic creation. Plenary talk (基調講演) *The 41th Annual meeting of the Cognitive Science Society*, Montreal, Canada, July 25.

Shimizu, D., Hirashima, M., & Okada, T. (2019). Interaction between idea-generation and idea-externalization processes in artistic creation: Study of

- an expert Breakdancer. In A. K. Goel, C. M. Seifert, & C. Freksa (Eds.), In A. K. Goel, C. M. Seifert, & C. Freksa (Eds.), *Proceedings of the 41st Annual Conference of the Cognitive Science Society* (pp. 1041-1047). Montreal, Canada, July 24-27. (Full Paper査読有).
- Matsumoto, K., , & Okada, T. (2019). Relationship Between Creative Experience, Recognition of Creative Process and Aesthetic Impression in Art-Viewing. In A. K. Goel, C. M. Seifert, & C. Freksa (Eds.), *Proceedings of the 41st Annual Conference of the Cognitive Science Society* (p. 2317). Montreal, Canada, July 24-27. (Full Paper査読有)
- Yokochi, S., & Okada, T. (2019). The process of art-making: An analysis of artist's modification of conditions in the art-making process. In A. K. Goel, C. M. Seifert, & C. Freksa (Eds.), *Proceedings of the 41th Annual Conference of the Cognitive Science Society* (pp.3172-3178). Montreal, Canada, July 24-27. (Full paper査読有)
- Takagi, K., Yokochi, S., & Okada, T. (2019). A case study of formation of an art concept by a contemporary artist: Analysis of the utilization of drawing in the early phase. In A. K. Goel, C. M. Seifert, & C. Freksa (Eds.), *Proceedings of the 41th Annual Conference of the Cognitive Science Society* (p. 3367). Montreal, Canada, July 24-27. (abstract査読有)
- Ishiguro, C., & Okada, T. (2019). How Does Art Appreciation Promote Artistic Inspiration? In A. K. Goel, C. M. Seifert, & C. Freksa (Eds.), *Proceedings of the 41th Annual Conference of the Cognitive Science Society* (p. 3367). Montreal, Canada, July 24-27. (abstract査読有)
- Koto, M., Shimizu, D., and Okada, T. (2019). The Cognitive Process of Reinterpreting Non-art Objects in an Art Context. In A. K. Goel, C. M. Seifert, & C. Freksa (Eds.), *Proceedings of the 41th Annual Conference of the Cognitive Science Society* (p. 3367). Montreal, QB: Cognitive Science Society. Montreal, Canada, July 24-27. (abstract査読有)
- 遠藤利彦(教授)**
〈著書〉
 遠藤利彦 (2018). アタッチメントが拓く健やかな発達. 汐見稔幸監修「0・1・2歳児からのていねいな保育(1):ここまで見えてきた赤ちゃんの心の世界」(pp. 10-23). フレーベル館.
- 遠藤利彦 (2018). 基礎心理学. 日本心理研修センター (監修), 公認心理師現任者講習会テキスト. 金剛出版.
- 遠藤利彦 (共著). (2019). 言葉・非認知的な心・学ぶ力. 中央法規.
- 遠藤利彦 (共編著). (2019). 乳幼児の発達と保育—食べる・眠る・遊ぶ・繋がる. 朝倉書店.
- 遠藤利彦 (2020). 虐待対応に活かし得る発達心理学の知見. 滝川一廣・内海新祐 (編), 子ども虐待を考えるために知っておくべきこと (pp.94-103). 日本評論社.
- 〈学術誌等論文〉**
 遠藤利彦 (2018). 「非認知」的な心の揺籃としてのアタッチメント(1):総論. 保育通信 (全国私立保育園連盟), 753, 32-35.
- 遠藤利彦 (2018). 「非認知」的な心の揺籃としてのアタッチメント(4):アタッチメントと不適切な養育. 保育通信 (全国私立保育園連盟), 756, 24-27.
- 遠藤利彦 (2018). 「非認知」的な心の揺籃としてのアタッチメント(5):アタッチメントと「愛の理論」. 保育通信 (全国私立保育園連盟), 757, 32-36.
- 遠藤利彦 (2018). 「非認知」的な心の揺籃としてのアタッチメント(6):「愛の理論」の視点からベリ—就学前計画を見直す. 保育通信 (全国私立保育園連盟), 758, 20-24.
- 遠藤利彦 (2018). 「非認知」的な心の揺籃としてのアタッチメント(7):現代的集団共同型子育ての核なる保育. 保育通信 (全国私立保育園連盟), 759, 27-31.
- 遠藤利彦 (2018). 「非認知」的な心の揺籃としてのアタッチメント(8):感情の立て直しと映し出し. 保育通信 (全国私立保育園連盟), 760, 24-28.
- 遠藤利彦 (2018). 「非認知」的な心の揺籃としてのアタッチメント(9):「安心感の輪」が支え促す主体的・対話的な深い学び. 保育通信 (全国私立保育園連盟), 761, 32-35.
- 遠藤利彦 (2018). 「非認知」的な心の揺籃としてのアタッチメント(10):「情緒の利用可能性」と「真の自己」. 保育通信 (全国私立保育園連盟), 762, 17-21.
- 遠藤利彦 (2018). アタッチメント理論における基点と現代的展開. ころの科学 (日本評論社),

- 198, 1-16.
- 遠藤利彦 (2018). アタッチメント理論から見る子どもの育ちと家庭. 世界の児童と母性 (資生堂社会福祉事業財団), 83, 7-11.
- 遠藤利彦 (2018). 心身発達の土台を築くアタッチメント. 保育の友, 66, 21-24.
- 遠藤利彦 (2018). 赤ちゃんとつながる: アタッチメントが心身発達に及ぼす影響. 小児看護, 41, 244-249.
- 遠藤利彦 (2018). アタッチメントが拓く生涯発達. 発達 (ミネルヴァ書房), 153, 2-9.
- 遠藤利彦 (2018). 「学力の評価と測定をめぐる」: 「非認知」なるものの発達と教育: 殊に学力形成との関わりにおいて. 教育心理学年報 (日本教育心理学会), 57, 220-225.
- 遠藤利彦 (2019). 「非認知」的な心の揺籃としてのアタッチメント(11): 家庭と保育所: 二つの社会的世界に生きる子ども. 保育通信 (全国私立保育園連盟), 763, 28-32.
- 遠藤利彦 (2019). 「非認知」的な心の揺籃としてのアタッチメント(12): 乳幼児期に感情はどのように萌芽し発達するか. 保育通信 (全国私立保育園連盟), 764, 27-31.
- 遠藤利彦 (2019). 「非認知」的な心の揺籃としてのアタッチメント(13): 心の読み取りは視線の理解から始まる. 保育通信 (全国私立保育園連盟), 765, 33-37.
- 遠藤利彦 (2019). 「非認知」的な心の揺籃としてのアタッチメント(14): 他者に対する思いやりの萌芽と発達. 保育通信 (全国私立保育園連盟), 766, 24-28.
- 遠藤利彦 (2019). 「非認知」的な心の揺籃としてのアタッチメント(15): 「心の理論」の萌芽と発達. 保育通信 (全国私立保育園連盟), 767, 27-31.
- 遠藤利彦 (2019). 「非認知」的な心の揺籃としてのアタッチメント(16): ジョイントネスとマインド・マインデッドネス. 保育通信 (全国私立保育園連盟), 768, 30-34.
- 遠藤利彦 (2019). 「非認知」的な心の揺籃としてのアタッチメント(17): 正当な怒りの発達. 保育通信 (全国私立保育園連盟), 769, 31-35.
- 遠藤利彦 (2019). 「非認知」的な心の揺籃としてのアタッチメント(18): 自閉症スペクトラム児におけるアタッチメント. 保育通信 (全国私立保育園連盟), 770, 20-24.
- 遠藤利彦 (2019). アタッチメントが拓く子どもの未来(1): そもそもアタッチメントとは何なのか? 児童養護 (全国児童養護施設協議会), 50(1), 34-43.
- 遠藤利彦 (2019). アタッチメントが拓く子どもの未来(2): 「愛の理論」の起源とそれが導くもの. 児童養護 (全国児童養護施設協議会), 50(2), 33-43.
- 遠藤利彦 (2019). アタッチメントが拓く子どもの未来(3): アタッチメントの個人差とそれを分けるもの-無秩序・無方向型も含めて. 児童養護 (全国児童養護施設協議会), 50(3), 30-39.
- 石井悠・高橋翠・岡明・遠藤利彦 (2019). 全国の病棟保育に関する実態と課題 第一報. 小児保健研究, 78, 460-467.
- 遠藤利彦 (2020). アタッチメントが拓く子どもの未来(4): 関係性全体の歪みの中で心身に傷を負ってしまう子どもたち. 児童養護 (全国児童養護施設協議会), 50(4), 32-43.
- 遠藤利彦 (2020). 「非認知」的な心の揺籃としてのアタッチメント(19): 自尊心・自己肯定感と内発的動機付けの発達. 保育通信 (全国私立保育園連盟), 771, 28-32.
- 遠藤利彦 (2020). 「非認知」的な心の揺籃としてのアタッチメント(20): アタッチメントの生涯発達と世代間伝達. 保育通信 (全国私立保育園連盟), 772, 24-28.
- 石井悠・高橋翠・岡明・遠藤利彦 (2020). 全国の病棟保育に関する実態と課題 第二報. 小児保健研究, 79, 371-379.
- 遠藤利彦 (2020). アタッチメント: 「非認知」的な心の発達を支え促すもの. 日本教材文化研究財団・研究紀要, 49, 21-27.
- 遠藤利彦 (2020). 「非認知」の中核なる感情: それが発達にもたらすもの. 発達 (ミネルヴァ書房), 163) 2-8.
- 遠藤利彦 (2020). アタッチメント研究の現在とこれからの行方. 教育と医学 (慶應義塾大学出版会), 796, 4-11.
- 遠藤利彦 (2020). 「情の理」論: 感情の中に潜む合理なるもの. 臨床心理学, 20(3), 262-265.
- 遠藤利彦 (2020). アタッチメントと非認知的な心の発達: 親子・家族関係の再構築と養育環境改善. 世界平和研究, 46(3), 16-21.

〈報告書〉

遠藤利彦 (統括) (2018). 「社会情緒的コンピテン

ス調査に係る分析結果」報告書（研究代表：濱口太久未）．国立教育政策研究所．

遠藤利彦[研究代表]（2018）．『乳児院養育の可能性と課題を探る—現代発達科学的視座からの検証—（1）』．平成29年度・子どもの虹情報研修センター研究報告書．

遠藤利彦[研究代表]（2019）．『乳児院養育の可能性と課題を探る—現代発達科学的視座からの検証—（2）』．平成30年度・子どもの虹情報研修センター研究報告書．

〈エッセイ・雑誌記事・講演録等〉

遠藤利彦（2018）．イヤイヤ期と子どもの成長．母子保健（公益財団法人母子衛生研究会），716，1-4．

遠藤利彦（2018）．「遺伝と環境」による発達研究最前線．エデュカーレ（臨床育児研究会），83，57-63．

遠藤利彦（2019）「先生はいつも見まもっているよ」：安全・安心のベースとして．smile（学研出版），417，1-6．

遠藤利彦（2019）．信頼を育むアタッチメント．赤ちゃん和妈妈，53(1)，2-5．

遠藤利彦（2019）．子供の成長に大切な大人の関わり方．さんさい，2018年6月号，8-13．

遠藤利彦（2020）．「触れ合う」「集う」は欠かせない：子ども時代の遊びと生活．げんき（エイデル出版），180，2-13．

遠藤利彦（2020）．虐待を「マルトリートメント」で理解すると見えてくる．エデュカーレ（臨床育児研究会），98，48-54．

遠藤利彦（2020）．これからの時代に求められる「非認知能力」とは何だ？ Sport Japan (JSPO)，49，7-9．

遠藤利彦（2020）．親子のコミュニケーションと愛着．母子保健（公益財団法人母子衛生研究会），730，1-4．

遠藤利彦（2020）．未来を生き抜くところを育てる：アタッチメントと非認知的な心の発達．子どもの育ち、親の育ち（前川財団未来教育シンポジウム講演集），4，82-113．

遠藤利彦（2020）．家庭と園：二つの社会的世界に生きる子ども．幼児教育じほう（全国国公立幼稚園・こども園長会），令和2年1月号，4-10．

〈学会発表〉

本島優子・鈴木八朗・佐々木美緒子・小橋照子・馬場健・林信樹・佐藤彰矩・市川慎一郎・西田季里・

遠藤利彦「赤ちゃん学からみる乳児保育におけるアタッチメント：子育て・保育における人材育成の観点から」（大会企画シンポジウム・司会・指定討論）．日本赤ちゃん学会 第18回学術集会（東京大学本郷キャンパス）．2018年7月8日．

白井利明・尾崎仁美・日潟淳子・徳田治子・中村知靖・遠藤利彦・野村晴夫「人生の発達と語り直し：青年期から中年期の縦断研究」（自主シンポジウム・指定討論）．日本教育心理学会第60回総会（慶應義塾大学・日吉キャンパス）．2018年9月15日．

鹿毛雅治・秋田喜代美・今井むつみ・楠見孝・遠藤利彦・石黒広昭・奈須正裕・小林宏己「授業改善：心理学からの提言」（準備委員会企画公開シンポジウム・話題提供）．日本教育心理学会第60回総会（慶應義塾大学・日吉キャンパス）．2018年9月16日．

利根川明子・河本愛子・榊原良太・川本哲也・石井佑可子・武藤世良・遠藤利彦「非認知的（社会情緒的）コンピテンスの教育と展望」（自主シンポジウム・指定討論）．日本教育心理学会第60回総会（慶應義塾大学・日吉キャンパス）．2018年9月16日．

本郷一夫・若島孔文・遠藤利彦・藤野博・湯澤正通・秦野悦子「社会性の発達と支援」（大会準備委員会企画シンポジウム・話題提供）．日本心理学会第82回大会（仙台国際センター）．2018年9月25日．

澤田匡人・石井辰典・村山綾・綿村英一郎・遠藤利彦・北村英哉「正義は人の為ならず—公正推論から描くシャーデンフロイデの輪郭」（自主シンポジウム・指定討論）．日本心理学会第82回大会（仙台国際センター）．2018年9月27日．

遠藤利彦「福祉心理学とアタッチメント」（基調講演）．日本福祉心理学会第16回大会（静岡大学）．2018年12月8日．

本郷一夫・子安増生・遠藤利彦・近藤清美・氏家達夫「発達を支援するとは何を支援することか：実践現場における発達心理学の役割」（日本発達心理学会関連団体企画シンポジウム・話題提供）．日本発達心理学会第30回大会（早稲田大学西早稲田キャンパス）．2019年3月17日～3月19日．

白井利明・都筑学・中村知靖・日潟淳子・徳田治子・遠藤利彦「成人期女性の語り直し：長期縦断事例の前方視的構成」（自主シンポジウム・指定討論）．日本発達心理学会第30回大会（早稲田大学西早稲田キャンパス）．2019年3月17日～3月19日．

川本哲也・安藤寿康・敷島千鶴・中村聖・遠藤利彦
「行動遺伝学から見る認知的・非認知的能力の発達」(自主シンポジウム・指定討論). 日本発達心理学会第30回大会(早稲田大学西早稲田キャンパス). 2019年3月17日～3月19日.

石井佑可子・利根川明子・榊原良太・川本哲也・武藤世良・遠藤利彦「非認知的(社会情緒的)コンピテンスの発達と展望(2)」(自主シンポジウム・指定討論). 日本発達心理学会第30回大会(早稲田大学西早稲田キャンパス). 2019年3月17日～3月19日.

高橋翠・新屋裕太・茂木一孝・菊池吉晃・松島佳苗・小山悠里・遠藤利彦「“触れ合い”から発達を捉える:子どもの発達における触覚コミュニケーションの役割を考える」(ラウンドテーブル・ディスカッション・指定討論). 日本発達心理学会第30回大会(早稲田大学西早稲田キャンパス). 2019年3月17日～3月19日.

河邊貴子・遠藤利彦・板倉昭二・今川恭子・岸本健「赤ちゃん学会に期待すること『関係性の赤ちゃん学』:主観性と行動表出とのあわい」(大会企画リレー講演). 日本赤ちゃん学会第19回学術集会(聖心女子大学). 2019年7月6日.

楠見孝・菅原ますみ・市川伸一・池田まさみ・遠藤利彦・唐沢かおり「高等学校への心理学教育の導入をめぐる」(公開シンポジウム・指定討論). 日本心理学会2019年度公開シンポジウム(慶応義塾大学三田キャンパス). 2019年12月7日.

遠藤利彦「養護と教育の表裏一体性:アタッチメントと非認知的な心の発達」(教育講演). 日本乳幼児教育学会第29回大会(東北文教大学). 2019年12月8日.

高橋翠・浜名真衣・柳岡開地・湯浅阿貴子・遠藤利彦「幼児期の社会性発達を支える保育実践とは:発達・保育研究からの示唆」(自主シンポジウム・指定討論). 日本乳幼児教育学会第29回大会(東北文教大学). 2019年12月8日.

子安増生・林創・郷式徹・本郷一夫・遠藤利彦「公認心理師養成における発達心理学の教育」(大会委員会企画シンポジウム・指定討論). 日本発達心理学会第31回大会(大阪国際会議場). 2020年3月3日.

〈講演〉

遠藤利彦 招待講演:非認知なるものの発達と教育. 吉川市教育研究会講演会(吉川市中央公民

館大ホール). 2018年5月14日.

遠藤利彦 招待講演:乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達. 北佐久地区保育・幼児教育研究特別講演会(たてしな保育園ホール). 2018年5月19日.

遠藤利彦 招待講演:保育者のスキルアップと子ども理解のために:careとeducationの表裏一体性. 石川県保育者研修講演会(金沢商工会議所会館). 2018年5月20日.

遠藤利彦 招待講演:アタッチメントと子どもの発達. 家庭養護促進協会講演会(神戸市こども家庭センター). 2018年5月25日.

遠藤利彦 招待講演:ほんとうはすごい赤ちゃんのちから. 佐野市子育て市民フォーラム(佐野市中央公民会館). 2018年6月9日.

遠藤利彦 招待講演:乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割. 京都府私立幼稚園連盟講演会(京都私学会館). 2018年6月12日.

遠藤利彦 招待講演:子育て・子育ての基本:アタッチメントと非認知的な心の発達. 福岡県幼児教育実践フォーラム(福岡ガーデンパレス). 2018年6月23日.

遠藤利彦 招待講演:子育て・子育ての基本について考える. 川越市私立保育園協会講演会(ウエスタ川越). 2018年6月26日.

遠藤利彦 招待講演:生涯発達の土台となるアタッチメント. 広島市公立保育園協会講演会(広島市教育センター). 2018年7月13日.

遠藤利彦 招待講演:乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達. 東京社会福祉協議会特別講演(四谷区民ホール). 2018年7月17日.

遠藤利彦 招待講演:親と子の情緒的絆:アタッチメントが拓く子どもの未来. 公益財団法人前川財団第8回未来教育シンポジウム(大正記念館). 2018年7月21日.

遠藤利彦 招待講演:乳児院養育の可能性と課題を探る. 第62回全国乳児院研修会(甲府富士屋ホテル). 2018年7月24日.

遠藤利彦 招待講演:乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割. 第30回九州ブロック保育士会セミナー(熊本市市民会館). 2018年7月25日.

遠藤利彦 招待講演:指針等の改定から、保育・教育の根底を探る. 第5回九州保育三団体研究大会(熊本市市民会館). 2018年7月26日.

遠藤利彦 招待講演・パネルディスカッション:幸

- せの土台となる非認知の心. 第8回茅ヶ崎市響きあい教育シンポジウム(茅ヶ崎市役所コミュニティホール). 2018年8月6日.
- 遠藤利彦 招待講演: 乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割. 江東区保育研究会講演(江東区民会館). 2018年9月3日.
- 遠藤利彦 招待講演: 赤ちゃんの発達とアタッチメント. 栃木県民間保育施設協会講演会(栃木県総合文化センター). 2018年9月4日.
- 遠藤利彦 招待講演: 乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達. 豊島区福祉講座(としま区民センター). 2018年9月21日.
- 遠藤利彦 招待講演: 乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達. 平成30年度日本保育協会全国理事長・所長研修会(ANAクラウンプラザホテル金沢). 2018年9月26日.
- 遠藤利彦 招待講演: 乳幼児の愛着形成について. 北海道私立幼稚園協会道東ブロック教育研究大会(帯広市民文化ホール). 2018年9月29日.
- 遠藤利彦 招待講演: 乳幼児期のアタッチメントと保育者の役割. 高岡市保育研究講演会(ウィング高岡). 2018年10月5日.
- 遠藤利彦 招待講演: アタッチメントから見る発達. 日田市民間保育連盟研修会(日田市役所). 2018年10月15日.
- 遠藤利彦 招待講演: 乳子どもの心身の発達に関係性はいかなる影響を及ぼすか? 法務省特別養子部会研修講演(法務省). 2018年10月23日.
- 遠藤利彦 招待講演: 乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達. 第62回全国保育研究大会(川崎日航ホテル). 2018年10月25日.
- 遠藤利彦 招待講演: アタッチメントと子どもの発達. 多摩市公私立保育園園長会主催研修(稲城市iプラザ). 2018年11月2日.
- 遠藤利彦 招待講演: 乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割. 北九州保育所連盟特別講演会(北九州ソレイユホール). 2018年11月3日.
- 遠藤利彦 招待講演: 乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達. 岡山県私立保育園連盟会講演会(岡山国際交流センター). 2018年11月9日.
- 遠藤利彦 招待講演: 乳幼児のこころ: 子育て・子育ての発達心理学. 京都府保育協会保育講演会(京都キャンパスプラザ). 2018年11月12日.
- 遠藤利彦 招待講演: アタッチメント: 自分に自信が持てる子どもになる. 朝霞市児童虐待防止セミナー(朝霞市中央公民館). 2018年11月13日.
- 遠藤利彦 招待講演: 乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達. 千葉市民間保育園協議会講演会(千葉商工会議所). 2018年11月16日.
- 遠藤利彦 招待講演: 乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割. 新潟県保育士会特別講演会(新潟ユニオンプラザ). 2018年11月20日.
- 遠藤利彦 招待講演: 乳幼児期の保育と教育は表裏一体~心の土台をつくる愛着関係~第20回大阪保育子育て人権研究集会(富田林市・大谷大学). 2018年11月25日.
- 遠藤利彦 招待講演: 乳児院養育の可能性と課題を探る. 乳児院上級職員セミナー(全社協ホール). 2018年11月29日.
- 遠藤利彦 パネラー: パネルディスカッション「子どもたちに手渡したい未来」. 第9回子育て支援センター全国セミナー(ウエスタ川越). 2018年12月3日.
- 遠藤利彦 招待講演: 乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割. 東京都公立保育園研究会講演(練馬文化ホール). 2018年12月4日.
- 遠藤利彦 基調講演: 子どもの発達とアタッチメント. 山形県子育て支援学習交流会(山形県村山総合支庁). 2018年12月11日.
- 遠藤利彦 招待講演: 最新の研究から学ぶ新しい赤ちゃん像と保育実践. 全国私立保育園連盟保育総合研修会(神戸ANAクラウンプラザホテル). 2019年1月24日.
- 遠藤利彦 招待講演: 乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割. 第61回中部地区幼児教育研究会(名古屋市・鯉城ホール). 2019年1月26日.
- 遠藤利彦 招待講演: 乳幼児期におけるアタッチメントと子どもの社会情緒的発達. 神奈川県社会福祉法人経営青年会保育研究委員会講演会(神奈川県社会福祉会館). 2019年1月29日.
- 遠藤利彦 基調講演: 発達臨床的視座から見るアタッチメント. 社会福祉法人子どもの虐待防止センター・第49回子どもの虐待防止セミナー(国立オリンピック記念青少年総合センター). 2019年2月21日.
- 遠藤利彦 招待講演: アタッチメントと子どもの育ち. 一宮市保育研修講演会(一宮市尾西市民会館). 2019年5月11日.
- 遠藤利彦 招待講演: 乳幼児期におけるアタッチメ

- ントと非認知的な心の発達。春日井市保育研修講演会（春日井市民会館）。2019年5月18日。
- 遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達。埼玉県保育士会研修講演会（埼玉会館）。2019年5月22日。
- 遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割。富山県民間保育園連盟講演会（ウィング高岡）。2019年5月23日。
- 遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達。北海道道南地区子育て支援実力養成講座。2019年5月26日。
- 遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割。江戸川区保育研究会講演（江戸川区総合文化センター）。2019年5月28日。
- 遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達。長岡市教育委員会幼児教育特別講演（長岡リリックホール）。2019年6月1日。
- 遠藤利彦 基調講演：乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割。第59回福井県保育研究大会（福井県立大学）。2019年6月9日。
- 遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割。広島市保育連盟特別研修会講演。2019年6月14日。
- 遠藤利彦 記念講演：アタッチメントと子どもの発達。第3回岐阜県乳幼児教育・保育セミナー（セラトピア土岐）。2019年6月22日。
- 遠藤利彦 招待講演：乳児保育の意義と実践・計画・評価。日本保育協会石川県支部 幼児教育実践研究会検討会（石川県地場産業振興センター）。2019年6月29日。
- 遠藤利彦 招待講演：乳児院におけるアセスメントの実践課題。第63回全国乳児院研修会（沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハ）。2019年7月11日。
- 遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割。栃木市保育施設職員講演会（栃木市大平文化会館）。2019年7月19日。
- 遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達。甲府市保育連合会研修会（甲府記念日ホテル）。2019年7月23日。
- 遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割。名古屋市保育士会研修会講演（名古屋市・鯉城ホール）。2019年7月27日。
- 遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達。全国神社保育団体連合会保育研修大会（湯本富士屋ホテル）。2019年7月29日。
- 遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと自己・社会性の発達。静岡西部夏季大学保育研修大会（浜松短期大学）。2019年8月4日。
- 遠藤利彦 招待講演：保育所の今を考える。弁護士連合会保育研究大会（弁護士会館）。2019年8月5日。
- 遠藤利彦 招待講演・パネルディスカッション：子どもの心を育むタテの関係・ナナメの関係・ヨコの関係。第9回茅ヶ崎市響きあい教育シンポジウム（茅ヶ崎市役所コミュニティホール）。2019年8月5日。
- 遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割。東京都特別区保育教育研修会（東京区政会館）。2019年8月6日。
- 遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達。東京都私立幼稚園教育研修会（アルカディア市ヶ谷）。2019年8月7日。
- 遠藤利彦 招待講演：共同養育とアタッチメント。第34回全日本私立幼稚園連合会関東地区教員研修山梨大会（山梨県立大学）。2019年8月22日。
- 遠藤利彦 招待講演：子どもが主体的に育つ保育とは。箕面市教育委員会子ども未来創造局教育研修会（箕面市メイプルホール）。2019年9月3日。
- 遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達。佐賀県保育士会研修講演会。2019年9月4日。
- 遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割。岡山県私立幼稚園連盟講演会（岡山国際交流センター）。2019年9月6日。
- 遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達。新潟県令和元年度教育研究協議会講演会（新潟大学附属幼稚園長岡校）。2019年9月19日。
- 遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割。国分寺保育研修講演会（国分寺市・ひかりプラザ）。2019年9月20日。
- 遠藤利彦 招待講演：思春期発達基盤としてのアタッチメント。横浜市児童相談所係別研修講演会（横浜中央児童相談所）。2019年9月27日。
- 遠藤利彦 招待講演：就学前期におけるアタッチメントと子どもの社会情緒的発達。神奈川県乳児保育講演会（横浜女子短期大学）。2019年10月4日。

- 遠藤利彦 招待講演：子どもたちの今と未来の幸せをねがって：一人一人の豊かな育ちを支える質の高い幼児教育を。山形県私立幼稚園・認定こども園教員研究大会（鶴岡市マリア幼稚園ホール）。2019年10月11日。
- 遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達。青森県保育研究大会（ホテル青森）。2019年10月15日。
- 遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割。秋田県民間保育協議会・保育の質を高める研修会（秋田ビューホテル）。2019年10月16日。
- 遠藤利彦 記念講演：子どもの自己肯定感と非認知能力を伸ばす子育てと教育について。公益社団法人鎌倉青年会議所設立55周年記念事業特別講演会（鎌倉プリンスホテル）。2019年10月16日。
- 遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達。鶴岡市保育協議会研究大会（鶴岡第一ホテル）。2019年10月26日。
- 遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割。渋谷区公立保育園研修会（渋谷区庁舎）。2019年11月1日。
- 遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達。佐賀市保育者研修大会。2019年11月2日。
- 遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達。石川県教育委員会金沢教育事務所・子どもたちの豊かな心を育む金沢地区フォーラム（石川県地場産業振興センター）。2019年11月4日。
- 遠藤利彦 基調講演：アタッチメントと子どもの非認知的な心の発達。山形県子育て支援学習交流会（山形県村山総合支庁）。2019年11月8日。
- 遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割。小山市保育協議会研修会（小山市市民交流センター）。2019年11月9日。
- 遠藤利彦 招待講演：発達臨床的視座から見るアタッチメント。東京都児相心理士研修講演会（東京都児童相談センター）。2019年11月15日。
- 遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割。天童市幼児教育連絡協議会特別講演会（天童市中部公民館）。2019年11月16日。
- 遠藤利彦 招待講演：アタッチメントと子どもの非認知的な心の発達。市川市保育研修講演（市川市教育会館）。2019年11月19日。
- 遠藤利彦 招待講演：アタッチメントと子どもの発達。厚生労働省主催保育初任者研修会。2019年11月21日。
- 遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達。鳥取県東部地区幼稚園教諭・保育教諭・保育士等合同研修会（鳥取県庁講堂）。2019年11月29日。
- 遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと子どもの非認知的な心の発達。日本保育協会横浜支部（横浜市総合福祉健康センター）。2019年12月2日。
- 遠藤利彦 招待講演：アタッチメントから見る発達。川崎市保育者研修会（川崎市役所）。2019年12月3日。
- 遠藤利彦 招待講演：幸せの土台となる非認知的な心。茅ヶ崎市教育講演会（茅ヶ崎市役所コミュニティホール）。2019年12月6日。
- 遠藤利彦 招待講演：親子・家族関係の再構築と養育環境改善への提言。一般社団法人平和政策研究所特別講演会（アルカディア市ヶ谷）。2019年12月12日。
- 遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達。掛川市かけがわ乳幼児教育未来学会特別講演会（掛川市生涯学習センター）。2019年12月13日。
- 遠藤利彦 招待講演：乳児院におけるアセスメントとアタッチメント形成。乳児院上級職員セミナー（全社協ホール）。2019年12月17日。
- 遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達。横手市保育協議会特別講演会（横手セントラルホテル）。2019年12月21日。
- 遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達。愛知県保険医協会「子どもの健康を考えるつどい」特別講演会（ライフポート豊橋）。2019年12月22日。
- 遠藤利彦 招待講演：アタッチメントと子どもの発達。石川県臨床心理士会講演会（金沢市長土堀青少年交流センター）。2020年1月14日。
- 遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達。豊島区私立幼稚園連盟研修講演会（学習院幼稚園）。2020年1月15日。
- 遠藤利彦 招待講演：乳幼児期に育てたい心。埼玉県社会福祉協議会保育研修大会（彩の国すこや

かプラザ)。2020年1月17日。

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割。全国私立保育園連盟保育総合研修会（神戸ANAクラウンプラザホテル）。2020年1月23日。

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと自己・社会性の発達。一般社団法人鹿児島市保育園協会全体研修講演会（鹿児島県建設センター）。2020年1月25日。

遠藤利彦 記念講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達。第62回熊本県保育研究大会（KKR熊本）。2020年1月29日。

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと子どもの発達。渋谷区私立保育園研修大会（渋谷区美竹の丘多目的ホール）。2020年1月30日。

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割。神奈川保育大学特別講演会（横浜市従会館）。2020年2月2日。

遠藤利彦 招待講演：乳児保育で大切にしたいこと。山梨県認定こども園設置者連絡会特別講演会（アピオ・タワー館）。2020年2月7日。

遠藤利彦 招待講演：未来を生き抜く子どもを育てる。公益財団法人前川財団第11回未来教育シンポジウム（前川製作所共創ホール）。2020年2月8日。

遠藤利彦 招待講演：乳幼児期におけるアタッチメントと保育者の役割。香取郡市保育研修特別講演会（佐原中央公民館）。2020年2月15日。

遠藤利彦 記念講演：乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達。令和元年度佐賀県認定こども園等研修事業特別講演会（西九州大学佐賀キャンパス）。2020年2月29日。

針 生 悦 子 (教授)

〈著書〉

針生悦子 「赤ちゃんはことばをどう学ぶのか」 東京：中央公論新社 2019年8月。

針生悦子 「聴く」 秋田喜代美（監修）、遠藤利彦・渡辺はま・多賀巖太郎（編）「乳幼児の発達と保育：食べる・眠る・遊ぶ・繋がる」(pp.114-123), 朝倉書店。2019年8月。

〈学会発表〉

Sudo, M., Ikeda, S., Matsui, T., & Haryu, E. Preschoolers inflexibly attend to lexical over paralinguistic cues in affective judgments of speech regardless of their

level of executive function and theory of mind. *Poster presented at the Cognitive Development Society 2019 Meeting*, Louisville, KY, USA. 2019年10月。

Kaneshige, T., Haryu, E., Okumura, Y., & Kobayashi, T. 2020 Children's trust in individuals who speak in a familiar regional accent and those who speak in the standard accent used on TV. *Poster presented at the Budapest CEU Conference on Cognitive Development*, Budapest, Hungary. 2020年1月。

池田慎之介・須藤美織子・松井智子・針生悦子 2020「日米の幼児における発話からの感情理解の発達」日本発達心理学会第31回大会，大阪。2020年3月。

劉敏俐・針生悦子「バイリンガル児における発話からの感情判断：3歳～6歳の日中バイリンガル児での検討」日本発達心理学会第31回大会，大阪。2020年3月。

〈その他〉

針生悦子「子どもの可能性を広げる保育～発達心理学の視点から～」神奈川県高等学校教科研究会家庭部会夏季講習会，かながわ県民センター。2019年7月。

針生悦子「話しかける こたえる 遊ぶ」発達保育実践政策学センター公開シンポジウム「発達と保育の本質の探究～人の育ちとそれを支える営みを見つめて～」，東京大学。2019年8月。

臨床心理学コース

能 智 正 博 (教授)

〈著書〉

能智正博（分担執筆），「ナラティブ分析」，サトウタツヤ・春日秀朗・神崎真美（編）『質的研究法マッピング——特徴をつかみ，活用するために』，新曜社，pp.160-167，2019。

能智正博（分担執筆），「みどりさんとのダイアログをめぐって③」，国重浩一・横山克貴（編）『ナラティブ・セラピーのダイアログ——他者と紡ぐ治療的会話，その〈言語〉を求めて』，北大路書房，pp.130-157，2020。

〈学術論文〉

能智正博（単著），「質的研究の評価をどう考えるか——APAスタンダードを素材として」，『質的心理学フォーラム』，第11巻，2019，pp.43-53。

能智正博（単著），「メンタルヘルス研究を質的にはじめてみたい方へ——実はけっこう難しいインタ

ビューの技法」, 『学校メンタルヘルス』, 第22巻第1号, 2019, pp. 54-57.

能智正博 (単著), 「『障がいの語り』を読む」, 『N: ナラティブとケア』, 第11巻, 2020, pp. 29-35.

堀内多恵・能智正博 (共著), 「受傷アスリート男性の競技離脱経験をめぐる語り——本人の認識する復帰に焦点を当てて」, 『質的心理学研究』, 第19巻, 2020, pp. 83-102.

江刺香奈・眞柄翔太・横山克貴・片山皓絵・広津侑実子・能智正博 (共著), 「障害児・者とケアする側のコミュニケーション不全は何をもたらすのか」, 『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』, 第43巻, 2020, pp. 34-42.

新井素子・金智慧・小林良介・佐藤遊馬・五嶋佐和子・能智正博 (共著), 2020 LGBT当事者である大学教職員を取り巻く環境と課題——当事者である大学教員の語りから——『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』, 第43巻, 2020, pp. 43-48.

〈学会発表／シンポジウム〉

Nochi, M. (口頭発表), Understanding “Pre-narrative narratives”: Use of photographs to infer the individual’s lived experience. *Qualitative Methods Conference 2019*, Brisbane, Australia, 2019, 5月.

能智正博・長谷川幹・小林隆司・増田司・藤田真樹・小川彰 (ポスター発表), 「脳損傷患者の「主体性」: 2018年度活動報告」, 第9回日本脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会, 湘南二宮, 神奈川, 2019, 7月.

Kanehara, A., Koike, H., Fujieda, Y., Yajima, S., Kabumoto, A., Morita, K., Kumakura, Y., Kanata, S., Yamaguchi, S., Miyamoto, Y., Fukuda, M., Nochi, M., Kasai, K.. (ポスター発表), The concept and facilitators of personal recovery for mental health service users in Japan. *The 7th European Conference on Schizophrenia Research*. Berlin, Germany, 2019, 9月.

松下弓月・伊森裕平・上田修司・堀内多恵・能智正博 (ポスター発表), 「心理専門職の専門性はいかに定義されてきたか——資格制度における専門性の文献的検討——」, 日本質的心理学会第16回大会, 東京, 2019, 9月.

沖潮 (原田) 満里子・能智正博・石島照代・横山克貴 (ポスター発表), 「障害者のきょうだいが生きる二重のライフストーリーにおける『ドミナントストーリー』の検討」, 日本質的心理学会第16回

大会, 東京, 2019, 9月.

能智正博 (企画・司会)・鈴木聡志・香川秀太・西村ユミ・檜田美雄 (シンポジウム), 「質的心理学の境界、そして越境——『質的心理学辞典』を質的研究の学びにどう生かしていくか——」, 日本質的心理学会第16回大会, 東京, 2019, 9月.

Horiuchi, T. & Nochi, M. (ポスター発表), Sports medical professionals’ views on psychological problems among injured athletes: A qualitative study focused on disagreements among professionals. *The 34th Annual Conference of Association of Applied Sports Psychology*. Portland, USA., 2019, 10月.

Ishijima, T., Nochi, M., & Omi, Y. (ポスター発表), How are we getting pleasure from living with people with severe disabilities? : An analysis of family members’ narratives on their adolescence. *MAXQDA International Conference (MQIC) 2020*. Berlin, Germany, 2020, 3月.

〈講演・講座〉

能智正博 (講師), 「質的研究入門——データ分析のはじめの一步」, 文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」東京大学 職域・地域架橋型「価値に基づく支援者育成」C-1 職域架橋連携コース, 東京大学, 2019, 5月.

小国喜弘・川村敏明・伊藤恵里子・秋田喜代美・能智正博・仁平典宏, (コメンテーター), 「応援ミーティングを学校へ——非援助の援助論」, 東京大学インクルーシブ教育公開シンポ, 東京大学, 2019, 6月.

能智正博 (講師), 「心理臨床をテーマに質的研究法を学ぶ」, 日本心理臨床学会第38回大会講習会, 2019, 6月.

Kotzé, E.・能智正博 (企画・司会), 講演会「Exploring values in identity claims: Rich story development」, 東京大学, 2019, 11月.

能智正博 (講師), “質的研究法入門”2019年度日本臨床心理士会臨床心理センター講座, 2020, 1月.

〈その他〉

能智正博 「『主体性』の再獲得としてのリカバリー——脳損傷リハビリテーションに従事する専門職の視点から——」新学術領域研究「脳・生活・人生からの統合的理解にもとづく思春期からの主的価値発展学」NEWS LETTER, vol. 3, p.17, 2019.

能智正博 (単著), 「UNIVASと合気道部」『赤門合気道』, 第60巻, pp. 44-45, 2019.

能智正博 (単著), 「パラリンピックの逆説」『えんかれっじ』, 第18号, pp. 4-5, 2020.

高橋美保 (教授)

〈著書〉

高橋美保 (分担執筆) 「第8章 精神障害者を取り巻く心理社会的課題」, 野島一彦・繁榊算男監修, 公認心理師の基礎と実践13, 柘植雅義・岩倉健二・野口和人・本田秀夫編, 『障害者・障害児心理学』, 遠見書房, 2020, pp.102-114.

〈雑誌論文〉

高橋美保 (共著), 「働きたいのに働けない人はどのような働き方を望んでいるのか——育児・介護との関連から非正規雇用の可能性を考える——」(可知悠子氏との共著), 『産業・組織心理学研究』, 33-1, 2019, pp.51-64.

高橋美保 (共著), 「成人の自閉スペクトラム症傾向者の多面的評価尺度の開発——生活能力・就労能力および自閉スペクトラム症特性を測定するための簡易型尺度」(黒田美保氏・田川薫氏・Alexander Krieg氏・中山奈緒子氏・馬場絢子氏・野村佳申氏・林さらさ氏との共著), 『臨床心理学』, 19-6, 2019, pp.725-736.

高橋美保 (共著), 「慢性疼痛患者の心理社会的困難の体験に関する質的研究」(中山奈緒子氏・松平浩氏との共著), 慢性疼痛, 38(1), 2019, pp.140-150.

高橋美保 (単著) 「特集: 解雇の救済 職を失うことによる労働者の非金銭的喪失」, 『日本労働研究雑誌』, 711, 2019, pp.48-57.

高橋美保 (単著), 「内観の今とこれからを考えるおわりに」, 内観研究, 25, 2019, pp.29-30.

高橋美保 (共著), 「中国人中高生のストレス及び心理的不適応——思春期の内発的ストレスに着目して——」(李曉茹氏・周澤西氏・王賛瑩氏との共著), 『東京大学大学院教育学研究科紀要』, 59, 2020, pp.527-540.

高橋美保 (共著), 「質的研究の分析手法に関する比較検討——初学者がGTAとM-GTAの分析プロセスで感じる困難感をテーマとして——」(江浦瑛子氏・隅田玲氏・中山奈緒子氏・馬場絢子氏・鳥羽翔太氏・藤沢祐未氏・和智遥香氏・中山莉子氏との共著), 『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』, 43, 2020, pp.49-57.

高橋美保 (共著), 「内観体験の臨床心理実践者に対する教育的効果についての検討——短期内観を

体験した臨床心理学の初学者を対象として——」(鳥羽翔太氏・和智遥香氏・隅田玲氏・馬場絢子氏・江浦瑛子氏・山口なつみ氏・李曉茹氏との共著), 『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』, 43, 2020, pp.58-66.

高橋美保 (共著), 「コンセンサスロールシャッハ法を用いたカップル間の合意過程についての質的検討」(加藤明日花氏・野村佳申氏との共著), 『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』, 43, pp.67-77.

〈学会発表〉

稲吉玲美・本田由美・勝又結菜・馬場絢子・高橋美保 (ポスター発表), マインドフルネス実践が臨床心理実践者のストレスマネジメントおよび臨床実践に与える影響——臨床心理士訓練過程の学生のワークショップ体験をもとに——日本心理学会第83回大会, 大阪, 2019.

李曉茹・呉国宏・高橋美保・羅ウチ (口頭発表), 中国人大学生を対象とする内観の実践および効果評価 第42回日本内観学会大会, 長崎, 2019.

〈シンポジウム〉

高橋美保 (講演者) 第115回日本精神神経学会学術総会シンポジウム11 内観療法の理論と現代的応用 “内観療法の作用機序”, 2019.

高橋美保 (指定討論者) 日本コミュニティ心理学会第22回大会 “多文化化するコミュニティにおける心理支援の人材育成——コミュニティ心理学の役割を考える——”, 2019.

高橋美保 (講演者) 八戸高等学校 I・2 学年模擬講義 “自分らしいライフキャリアを生き抜くために——ライフキャリアレジリエンスの視点から” 2019.

高橋美保 (講演者) 目白大学心理カウンセリング学科講演会 “臨床心理学と社会” 2019.

高橋美保 (講演者) 岐阜北高等学校 1 年生進路講演会 “キャリア教育” 2019.

高橋美保 (企画者・司会) 全国ダイバーシティネットワーク組織東京ブロック 課題別ワークショップ “女子学生の増加に向けて～多様な学生構成の実現を目指して” 2019.

高橋美保 (指定討論者) 第5回日本内観学会主催内観研修会 “内観療法の臨床応用について考える” 専門コース, 2020.

野中舞子 (講師)

〈雑誌論文〉

Goto, R., Fujio, M., Matsuda, N., Fujiwara, M., Nobuyoshi, M., Nonaka, M., Kono, T., Kojima M., Skokauskas, N, & Kano, Y (共著), The effects of comorbid Tourette symptoms on distress caused by compulsive-like behavior in very young children: a cross-sectional study. *Child and Adolescent Psychiatry and Mental Health*, 13, 2019, p.28.

野中舞子・石橋太加志・藤尾未由希・下山晴彦. 教育領域での公認心理師養成カリキュラムの検討—心理教育授業実践を中心に—東京大学大学院臨床心理学コース紀要, 43, 2020, pp.125-132.

〈学会発表〉

Hamamoto Y., Fujio M., Nonaka M., Matsuda N., Kono T. & Kano Y.(2019). Expert consensus on pharmacotherapy for tic disorders in Japan. The 10th Congress of The Asian Society for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions (ASCAPAP), Chiang Mai.

〈分担執筆〉

野中舞子 (共著). チック症 (チック障害) 日本認知・行動療法学会 (編) 認知行動療法事典 丸善出版, 2019, pp.152-153

身体教育学コース

山本義春 (教授)

〈論文〉

Fujimoto, C., M. Kinoshita, T. Kamogashira, N. Egami, T. Kawahara, Y. Uemura, Y. Yamamoto, T. Yamasoba, and S. Iwasaki. Noisy galvanic vestibular stimulation has a greater ameliorating effect on posture in unstable subjects: a feasibility study. *Scientific Reports* 9: 17189-1-10, 2019.

Inada, S., Y. Iizuka, K. Ohashi, H. Kikuchi, Y. Yamamoto, T. Kadowaki, and K. Yoshiuchi. Preceding psychological factors and calorie intake in patients with type 2 diabetes: investigation by ecological momentary assessment. *Bio PsychoSocial Medicine* 13: 20-1-6, 2019.

Foo, J. C., V. Vengeliene, H. R. Noori, I. Yamaguchi, K. Morita, T. Nakamura, Y. Yamamoto, and R. Spanagel. Drinking levels and profiles of alcohol addicted rats predict response to nalmefene. *Frontiers in Pharmacology* 10: 471-1-9, 2019.

Qian, K., Z. Ren, F. Dong, W.-H. Lai, B. Schuller, and Y. Yamamoto. Deep wavelets for heart sound classification. In: *Proceedings of the 28th International Symposium on Intelligent Signal Processing and Communication Systems (ISPACS)*, pp. 1-2, Taipei, Taiwan, China, December, 2019.

Chen, B., K. Hatada, K. Okabayashi, H. Kuromiya, I. Hidaka, Y. Yamamoto, and K. Togami. Group activity recognition to support collaboration in creative digital space. In: *ACM Conference on Computer Supported Cooperative Work and Social Computing (CSCW)*, pp. 175-179, Austin, Texas, USA, November, 2019.

Qian, K., H. Kuromiya, Z. Ren, M. Schmitt, Z. Zhang, T. Nakamura, K. Yoshiuchi, B. Schuller, and Y. Yamamoto. Automatic detection of major depressive disorder via a bag-of-behaviour-words approach. In: *Proceedings of the 3rd International Symposium on Image Computing and Digital Medicine (ISICDM)*, pp. 71-75, Xi'an, P. R. China, August, 2019.

Qian, K., H. Kuromiya, Z. Zhang, J. Kim, T. Nakamura, K. Yoshiuchi, B. W. Schuller, and Y. Yamamoto. Teaching machines to know your depressive state: on physical activity in health and major depressive disorder. In: *Proceedings of 41th Annual International Conference of IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC 2019)*, pp. 3592-3595, 2019.

〈招待講演〉

Yamamoto, Y. Future of Healthcare IoT: Challenge of Healthcare IoT Consortium (invited). *Healthcare IoT Consortium International Symposium 2019: Healthcare IoT meets Affective Computing*. Tokyo, Japan (May 2019).

Yamamoto, Y. Future of Healthcare IoT (keynote). *2019 International Workshop on Affective Intelligence*. Tianjin Normal University, Tianjin, China (May, 2019).

山本義春. IoTが拓くヘルスケアの近未来～慢性疼痛管理の可能性～. 第11回日本線維筋痛症学会・シンポジウム「痛み治療の現在・未来～令和時代の新たなアプローチ～」, 東京, 2019年10月.

多賀 巖太郎 (教授)

〈雑誌論文〉

H. Gima, K. Shimatani, H. Nakano, H. Watanabe, G. Taga: Evaluation of fidgety movements of infants based on Gestalt perception reflects differences in limb

- movement trajectory curvature. *Physical Therapy* 99, 701-710, 2019
- L. Kobayashi-Frisk, G. Taga, T. Durduran: Looking back at fNIRS 2018. *Neurophotonics* 6, 020401, 2019
- S. Fujii, H. Watanabe, G. Taga: Wearable strain sensor suit for infants to measure limb movements under interactions with caregiver. *Infant Behavior and Development* 58, 101418, 2020
- 多賀巖太郎：発達脳科学からみる新生児のコミュニケーション, *周産期医学* 49:1573-1576, 2019
- 多賀巖太郎：脳と腸内細菌の発達研究での気になる進歩, *精神科* 36:102-105, 2020
(著書)
- 多賀巖太郎 腸から脳へ. 秋田喜代美 (監)、遠藤利彦・渡辺はま・多賀巖太郎 (編著) 乳幼児の発達と保育：食べる・眠る・遊ぶ・繋がる. 朝倉書店, 40-51, 2019
- 〈その他〉
- G. Taga: FNIRS-EEG measurement of the cortex in sleeping infants, *International Symposium on Neonatal Seizures: Deepening Insights into Developmental Brain Injury*, Nagoya, May 31, 2019 (invited)
- F. Homae, D. Tsuzuki, H. Watanabe, G. Taga; Development of the white matter under the middle temporal gyrus in the individual infant brain. *OHBM*, Rome, June9-13, 2019
- D. Tsuzuki, G. Taga, H. Watanabe, F. Homae: Longitudinal myelination profiles in infant and toddler brains. *OHBM*, Rome, June9-13, 2019
- G. Taga: Beyond spontaneity in early development of human behavior and brain, *20th TMIMS International Symposium "Principles of Neocortical Development and Evolution"*, Tokyo, July 30, 2019 (invited)
- G. Taga; Illuminating early development of brain and behavior. *NTNU-Haskins Laboratories Joint Workshop on Language Acquisition, Statistical Learning, and fNIRS Applications*, National Taiwan Normal University, Taipei, Oct 5, 2019 (invited)
- Y. Shinya, H. Watanabe, G. Taga: Covariation of spontaneous movements and vocalizations in early infant crying: investigating the role of autonomic state. *52th Annual Meeting of the International Society for Developmental Psychobiology*, Chicago, USA, Oct 16-18, 2019
- K. Oku, Y. Shinya, H. Watanabe, G. Taga, S. Fujii: Change of Limb Movements in Response to Auditory Feedback with Virtual Drum-Kit Device in Three-Months-Old Infants, *10th annual Budapest CEU Conference On Cognitive Development*, Budapest, Jan 9-11, 2020
- 多賀巖太郎・渡辺はま：fNIRSを用いた脳腸相関の検討, 日本赤ちゃん学会第19回学術集会, 聖心女子大学, 東京, 2019.7.6
- 多賀巖太郎：東京大学知の摩擦プロジェクト第15回講演会, 東京大学, 東京, 2019.7.13 (招待)
- 多賀巖太郎：赤ちゃんの脳～発達脳科学から知の起源を探る～2019年度第3回都医学研都民講座, 東京, 2019.7.14 (招待)
- 多賀巖太郎：神経血管グリア系の動力学モデルにおける自発活動の生成, *日本光脳機能イメージング学会第22回学術集会*, 東京, 2019.7.20
- 多賀巖太郎：ヒトの脳の初期発達, *新幼児教育研究大会*, 大阪ガーデンパレス, 大阪, 2019.7.25 (招待)
- 多賀巖太郎：赤ちゃんの今とこれから～脳科学から子どもの育ちを考える～, *大阪総合保育大学総合保育研究所第9回記念講演会*, 大阪, 2019.11.9 (招待)
- 多賀巖太郎：ヒト脳の初期発達における自発性, U字型変化, 個性, 共生, *自然科学研究機構分野融合型共同研究事業ワークショップ「運動・行動から紐解く脳神経回路発達メカニズムの異分野融合研究による解明」* 生理学研究所, 岡崎, 2020.2.17 (招待)
- 森田賢治 (准教授)
- 〈雑誌論文〉
- Jerome Clifford Foo, Valentina Vengeliene, Hamid Reza Noori, Ikuhiro Yamaguchi, Kenji Morita, Toru Nakamura, Yoshiharu Yamamoto, & Rainer Spanagel. Drinking Levels and Profiles of Alcohol Addicted Rats Predict Response to Nalmefene. *Front Pharmacol* 10:471. doi: 10.3389/fphar.2019.00471. (2019)
- Kenji Morita, Sanghun Im, & Yasuo Kawaguchi. Differential Striatal Axonal Arborizations of the Intratelencephalic and Pyramidal-Tract Neurons: Analysis of the Data in the MouseLight Database. *Front Neural Circuits* 13: 71. doi: 10.3389/fncir.2019.00071. (2019)
- 永瀬麻子&森田賢治. 頭を使うのを嫌がる脳のし

くみ. *Clinical Neuroscience* (月刊臨床神経科学) Vol.37 (19年) 04月号 480-482. (2019)

東郷史治 (准教授)

〈著書〉

東郷史治. 「子どもと関わる人の睡眠」, 『乳幼児の発達と保育 食べる・眠る・遊ぶ・繋がる』, 秋田喜代美監修, 朝倉書店, pp.91-101, 2019

〈雑誌論文〉

Yamaguchi S., J. C. Foo, A. Nishida, S. Ogawa, F. Togo, T. Sasaki. 「Mental health literacy programs for school teachers: A systematic review and narrative synthesis」, 『Early Intervention in Psychiatry』, 14, pp.14-25, 2020.

西田明日香, 山口智史, 東郷史治, 佐々木司. 「相談相手の数と不安・抑うつ症状の関連を調査した横断・縦断的研究レビュー」, 『不安症研究』, 12, pp.18-26, 2020.

宮下充正, 野崎大地, 東郷史治, 福崎千穂, 岸哲史, 三井悠輔. 「健康に影響を与える身体活動の評価法」, 『体育の科学』, 70, pp.59-64, 2020.

宮下充正, 野崎大地, 東郷史治, 福崎千穂, 岸哲史, 武市理. 「身体活動が健康上のアウトカムに及ぼす効果」, 『体育の科学』, 70, pp.139-145, 2020.

宮下充正, 野崎大地, 東郷史治, 福崎千穂, 岸哲史, 三井悠輔. 「年齢・健康状態と身体活動効果」, 『体育の科学』, 70, pp.215-222, 2020.

Nishida, A., J. C. Foo, S. Shimodera, A. Nishida, Y. Okazaki, F. Togo, T. Sasaki. 「The association of weight status and weight perception with number of confidants in adolescents」, 『PLoS ONE』, 14, e0225908, 2019.

Ogawa, S., Y. Kitagawa, M. Fukushima, H. Yonehara, A. Nishida, F. Togo, T. Sasaki. 「Interactive effect of sleep duration and physical activity on anxiety/depression in adolescents」, 『Psychiatry Research』, 273, pp.456-460, 2019.

Ojio, Y., J. C. Foo, S. Usami, T. Fuyama, M. Ashikawa, K. Ohnuma, N. Oshima, S. Ando, F. Togo, T. Sasaki. 「Effects of a school teacher-led 45-min educational program for mental health literacy in pre-teens」, 『Early Intervention in Psychiatry』, 13, pp.984-988, 2019.

山口智史, 西田明日香, 小川佐代子, 小塩靖崇, 東郷史治, 佐々木司. 「学校教員を対象としたメンタルヘルスリテラシー教育プログラムの効果検

証: パイロットスタディ」, 『学校保健研究』, 61, pp.7-13, 2019.

三井悠輔, 東郷史治. 「運動療法研究の気になる進歩」, 『精神科』, 36, pp.86-91, 2019.

岸哲史 (助教)

〈雑誌論文〉

Kishi, A., S. Haraki, R. Toyota, Y. Shiraishi, M. Kamimura, M. Taniike, H. Yatani, T. Kato. Sleep stage dynamics in young patients with sleep bruxism. *SLEEP*, 43:1-12, 2020.

Wang, Y., K. Qian, J. Nelson, H. Yagi, A. Kishi, K. Morita, Y. Yamamoto. Can affective computing better the mental status of the computer games player? A perspective. *2020 IEEE 2nd Global Conference on Life Sciences and Technologies (LifeTech)*. pp.366-367, 2020.

〈招待講演・シンポジウム〉

岸哲史. ヒト睡眠段階遷移のダイナミクス. 大阪大学大学院歯学研究所・大学院特別講義 (特別セミナー), 大阪 (2020年1月).

山口郁博 (特任助教)

〈雑誌論文〉

I Yamaguchi, T Isomura, H Nakao, Y Ogawa, Y Jimbo, K Kotani, “suppression of macroscopic oscillations in mixed populations of active and inactive oscillators coupled through lattice Laplacian”, *Journal of the Physical Society of Japan* 88(5), 054004.

Jerome Clifford Foo, Valentina Vengeliene, Hamid Reza Noori, Ikuhiro Yamaguchi, Kenji Morita, Toru Nakamura, Yoshiharu Yamamoto, Rainer Spanagel, “Drinking levels and profiles of alcohol addicted rats predict response to nalmefene”, *Frontiers in pharmacology*, 10, 471, 1-9.

Ikuhiro Yamaguchi, Akifumi Kishi, Fumiharu Togo, Yoshiharu Yamamoto (国際会議発表) “Method to extract latent semantic components from noisy categorical time-series data applied to human sleep stage data”, 25th International Conference on Noise and Fluctuations, 2019.

教職開発コース

秋田 喜代美 (教授)

(著書)

(単著・編著)

秋田喜代美『新保育の心もち』ひかりのくに、2019, p.159.

大豆生田啓友・秋田喜代美・汐見稔幸(編)『保育者論』秋田喜代美「保育者の専門性」ミネルヴァ書房, 2019, pp.208-225.

秋田喜代美・藤江康彦(編)『これからの質的研究法: 15の事例にみる学校教育実践研究』東京図書 2019, pp.10-16, pp.32-39.

「地域の色・自分の色実行委員会」+秋田喜代美(編著)『色から始まる探究学習: アートによる自分づくり・学校づくり・地域づくり』明石書店, 2019, p.262.

(分担執筆)

秋田喜代美「保育学のこれから」無藤隆・大豆生田啓史・松永静子(編)『教育・保育の過去現在未来を結ぶ論点: 汐見稔幸とその周辺』エイデル出版, 2019, pp.18-25.

秋田喜代美「発達心理学からみた学びの暦」岡野昇・佐藤学(編)『小学校体育12か月の学びのデザイン: 学びの暦の活用と展開』大修館書店, 2019, pp.92-93.

秋田喜代美「認定子ども園および協会への期待」全国認定子ども園協会(編)『創立10年とこれから 創立10周年記念』中央法規出版, 2019, pp.96-97.

秋田喜代美「授業研究から学校改革へと繋ぐ地図が照らす学校教育の未来」木村優・岸野麻衣(編)『ワードマップ 授業研究 実践を変え、理論を確信する』新曜社, 2019, pp.47-254.

秋田喜代美「解説 対話により生まれる深い学びの授業の「真髄」」石井順二(著)『「対話的学び」をつくる 聴き合い学び合う授業』ぎょうせい, 2019, pp.173-180.

秋田喜代美「中学生・高校生における読書」日本読書学会(編)『読書教育の未来』ひつじ書房, 2019, pp.61-72.

秋田喜代美「授業研究システムにおける教師の専門的学びの変革」東京大学教育学部教育ガバナンス研究会(編)『グローバル化時代の教育改革: 教育の質保証とガバナンス』東京大学出版会, 2019, pp.219-230.

秋田喜代美「報告」にみる新しい学習評価」田中

耕治(編)『シリーズ 学びを変える新しい学習評価理論・実践編1 資質能力の育成と新しい学習評価』ぎょうせい, 2019, pp.40-50.

秋田喜代美「これからの学びとして、「こえる学び」を捉える」東京学芸大学附属小金井小学校(編著)『こどもがこえる学び』東洋館出版, 2020, pp.12-17.

秋田喜代美「日本における教育心理学の展望」武田明典(編)『教師と学生が知っておくべき教育心理学』北樹出版, 2020, pp.161-163.

(翻訳書)

経済協力開発機構(OECD)(編著)秋田喜代美・阿部真美子・一見真理子・門田理世・北村友人・鈴木正敏・星美和子(訳)『OECD保育の質向上白書: 人生の始まりこそ力強く ECECのツールボックス』明石書店, 2019, p.404.

アンドレアス・シュライヒャー(著)経済協力開発機構(OECD)(編)鈴木寛・秋田喜代美(監訳)小村俊平・平石年弘・桑原敏典・下郡啓夫・花井渉・藤原誠之・生咲美奈子・宮美和子(訳)『教育のワールドクラス——21世紀の学校システムをつくる』秋田喜代美「監訳者 あとがき」pp.343-348. 明石書店, 2019, p.352.

(雑誌論文)

(査読有学会誌)

秋田喜代美「授業実践の記述と論文化」『授業UD研究』8, 46-53, 2020.

宮本雄太・秋田喜代美・辻谷真知子・宮田まり子・石田佳織「子どもの活動から捉える園庭環境の探究: 保育に関与する者の役職に着目して」『こども環境学研究』15(2), 84-91, 2019.

堀田由香里・秋田喜代美・野澤祥子・程寿・高橋治「デジタル描画活動における他児の応答行為と描画表現の展開過程に関する検討: 4歳児と5歳児の注視対象の差異に注目して」『チャイルド・サイエンス: 子ども学』18, 32-37, 2019.

一前春子・秋田喜代美・天野美和子「保幼小連携の取り組みに対する保育者と小学校教諭の振り返りにみられる特徴—取り組みに影響を与える要因とは何か—」『国際幼児教育学研究』26, 39-50, 2019.

上田敏丈・秋田喜代美・芦田宏・小田豊・門田理世・鈴木正敏・中坪史典・野口隆子・箕輪潤子・椋田善之・淀川裕美・森暢子「事業継承における私立幼稚園園長のリーダーシップに関する研究」

『国際幼児教育学研究』26, 51-64. 2019.

杉本貴代・秋田喜代美・宮本雄太・宮田まり子・辻谷真知子・石田佳織「遊び場に対する幼児と保育者の認識の諸相：選好の多様性と視点の多重性」『チャイルド・サイエンス：子ども学』17, 31-36. 2019.

濱田秀行・秋田喜代美「小中高校生の読書に対する学校や家庭、友人間における行動の影響：学校図書館の魅力に注目して」『読書科学』61 (3-4), 143-153. 2020.

(紀要・雑誌論文)

秋田喜代美「社会情動的スキルの重視とその育ちを支える幼児期の重要性」『日本教材文化研究財団研究紀要』No.49. 8-14. 2020.

秋田喜代美・野澤祥子・堀田由香里・若林陽子「保育におけるデジタルメディアに関する研究の展望」『東京大学大学院教育学研究科紀要』59, 347-372. 2020.

鈴木正敏・淀川裕美・箕輪潤子・椋田善之・森暢子・野口隆子・上田敏丈・中坪史典・門田理世・芦田宏・小田豊・秋田喜代美「園内研修の課題と工夫、方向性に関する研究—管理職と職員の回答からの検討—」『兵庫教育大学研究紀要』第55巻 133-140. 2019.

淀川裕美・箕輪潤子・門田理世・秋田喜代美「園内研修における保育者の学びの構造化に関する試み：心に残った・保育への理解が深まった発言に着目して」『東京大学大学院教育学研究科紀要』59, 485-516. 2020.

天野美和子・野澤祥子・宮田まり子・秋田喜代美「ミドルリーダー・パターン」を用いた主任保育者研修の検討」『東京大学大学院教育学研究科紀要』59, 449-465. 2020.

三河内彰子・藤井祐介・木村優・秋田喜代美「探究型カリキュラム開発における学校のオーラルヒストリーの分析」『東京大学大学院教育学研究科紀要』59, 467-484. 2020.

森暢子・門田理世・野口隆子・鈴木正敏・芦田宏・箕輪潤子・秋田喜代美・小田豊、無藤隆・上田敏丈・中坪史典「幼児期から児童期における人とかわる力に関する縦断研究～協働性の質的変容に着目して～」『九州産業大学人間科学部紀要「人間科学」』2巻 36-45 DOI: 10.32223/hksu.2.0_362020, 2019.

(報告書)

リベルタス「諸外国における保育の質の捉え方・示し方に関する研究会報告書」(平成30年度厚生労働省委託事業座長 秋田喜代美) 2019.

(株) 創建「子供の読書活動の推進等に関する調査研究報告書」(平成30年度文部科学省委託事業座長 秋田喜代美) 2019.

(学会発表)

(国際学会等講演)

Akita, K. & Sato, M. 'Observing Japanese Classrooms with DVD and Doing Lesson Study to Build Learning Communities' WERA 10th annual conference, preconference workshop, co-coordinator, 2019/8/4

Akita, K. 'The System of Professional Development for Early Childhood Educators.' Invited symposium 06 "International Perspectives of Teacher Education for Early Childhood Educators :Is there an emergent science?'. Speaker of Invited symposium. 2019.8.7. WERA : Tokyo Gakusyuin-University.

Akita, K. 'Exploring the Variations of Lesson Study within and across Contexts: The Experience of Japan, UK and Singapore' invited symposium chair 2019.8.6. WERA : Tokyo Gakusyuin-University.

Akita, K. 2019. 'How do Teachers and Children Inquire about Challenging (Jumping) Tasks in Their Classrooms for Deep Learning?' School as Learning Community EDUCA 2019 international conference: Thailand, 2019.10.6.

秋田喜代美「コンピテンシーベースの探究学習：新学習指導要領の改訂のもとで」華東師範大学国際教育課程シンポジウム基調講演 2019.10.

秋田喜代美「コンピテンシーの育成と教科書作成：小学校国語を例に」華東師範大学シンポジウム教科書分析部会話題提供 2019.10.

(国内学会発表)

辻谷真知子・秋田喜代美・石田佳織・宮田まり子・宮本雄太「3歳未満児が使用する園庭の実態と実践」日本赤ちゃん学会大会発表抄録. 2019.6.

堀田由香里・秋田喜代美・野澤祥子「保育施設におけるデジタルメディアを活用した遊びの特性」日本保育学会第72回大会, 2019年05月4日

上田敏丈, 椋田善之, 秋田喜代美, 小田豊, 芦田宏, 門田理世, 鈴木正敏, 中坪史典, 野口隆子, 箕輪潤子, 森暢子, 「私立幼稚園の事業継承に関する実態調査(1)—園長のキャリアと職務—」日本保育

- 学会第72回大会, 2019年05月04日
 天野美和子・秋田喜代美「ミドルリーダーパターンを用いた主任研修の検討(2)活用と実践」日本保育学会第72回大会, 2019年05月5日
- 濱田秀行・秋田喜代美「小中高校生の電子メディア利用と読書活動に関する調査研究」日本読書学会第63回大会発表論文集, 73-79, 2019.8.
- Seiko Mochida・Mieko Sanada・Junko Takaoka・Misako Aramaki・Yoichi Sakaiharu・Mariko Ichimi・Kiyomi Akita・Takashi Muto 'Toddlers' Social and Emotional Skills and Mothers' Involvement in Japan, China, Indonesia, and Finland'. Poster presentation at OMEP in Kyoto, 2019.9.3-5
- 秋田喜代美「幼児教育と小学校教育の接続期を生きる子どもと保護者(1)年長児期を探る」日本教育心理学会第61回総会自主シンポジウムJE08指定討論者, 2019.9.15.
- 秋田喜代美「授業を意味づける(5)授業者・実践者・研究者の授業を観る視点と語り」日本教育心理学会第61回総会自主シンポジウムJD04話題提供者, 2019.9.15.
- 野口隆子, 上田敏丈, 椋田善之, 秋田喜代美, 芦田宏, 門田理世, 鈴木正敏, 中坪史典, 箕輪潤子, 「園長の役割と園運営の効果的な方法に関する研究—経験年数による比較—」, 日本教育方法学会第55回大会, 2019年09月28日, 第55回大会発表要旨 p.70.
- 秋田喜代美「地域行政と保育者養成校の協働による保育者支援の可能性について」大会企画シンポジウムⅢ 指定討論 日本乳幼児教育学会第29回大会発表論文集, 20-21. 2019.
- 秋田喜代美「園内研修における講師の役割」自主シンポジウム指定討論 日本乳幼児教育学会第29回大会研究発表論文集, 2-3. 2019.
- 石田佳織・秋田喜代美・宮本雄太・宮田まり子「3歳未満児における戸外環境の実態と実践(1)園庭での環境や使い方の工夫」日本乳幼児教育学会第29回大会研究発表論文集, 118-119, 2019.
- 大久保啓介・真田美恵子・李知苑・岡部恒志・高岡純子・唐音啓・小崎恭弘・島津明人・野澤祥子・遠藤利彦・秋田喜代美「乳幼児の生活と育ちに関する縦断研究2019(1)低出生体重児の自己制御の芽生えとその規程因について」日本発達心理学会第31回大会, 2020.3.2, PS1-1
- 真田美恵子・李知苑・岡部恒志・高岡純子・大久保啓介・唐音啓・小崎恭弘・島津明人・野澤祥子・遠藤利彦・秋田喜代美「乳幼児の生活と育ちに関する縦断研究2019(2)子育てに対する母親のアンビバレントな感情と養育行動に関する検討」日本発達心理学会第31回大会, 2020.3.2, PS1-2.
- 唐音啓・真田美恵子・李知苑・岡部恒志・高岡純子・大久保啓介・小崎恭弘・島津明人・野澤祥子・遠藤利彦・秋田喜代美「乳幼児の生活と育ちに関する縦断研究2019(3)周囲のサポートが育児肯定感と子どもの協調性との関連に与える影響の検討」日本発達心理学会第31回大会, 2020.3.2, PS1-3.
- 野澤祥子・真田美恵子・李知苑・岡部恒志・高岡純子・大久保啓介・唐音啓・小崎恭弘・島津明人・遠藤利彦・秋田喜代美「乳幼児の生活と育ちに関する縦断研究2019(4)父母のネガティブな養育行動の相互関連性に関する検討」日本発達心理学会第31回大会, 2020.3.2, PS1-4.
- 淀川裕美・箕輪潤子・門田理世・秋田喜代美・野口隆子・上田敏丈・中坪史典・森暢子・芦田宏・鈴木正敏・椋田善之・小田豊 2020「園内研修における学びの構造化に関する試み(1)心に残った発言・研修が活発になった発言に注目して」日本発達心理学会第31回大会, 2020.3.2, PS3-9.
- 箕輪潤子・淀川裕美・門田理世・秋田喜代美・野口隆子・上田敏丈・中坪史典・森暢子・芦田宏・鈴木正敏・椋田善之・小田豊 2020「園内研修における学びの構造化に関する試み(2)園内研修で学んだこと・他者の発話と学びのつながりに着目して」日本発達心理学会第31回大会, 2020.3.2, PS3-10.
- 〈報告書〉**
- 秋田喜代美「子どもの発達と絵本・読書」P50-64
 平成30年度国際子ども図書館 児童文学連続講座 講義録『絵本と子どもの原点をみつめる—子どもの成長発達と絵本』国立国会図書館国際子ども図書館, 2019.
- 秋田喜代美・神永美津子(監修)「科学する心を育てる」実践事例集,(財)ソニー教育財団, 2019.
- 〈DVD等教材開発〉**
- 秋田喜代美(監修・指導)「自分の色をみつけよう 地域の色・自分の色を作る試み」大分県佐伯市立宇目緑豊小学校・大分県立美術館「地域の色・自分の色実行委員会」(公財)児童教育振興財団, 2019.
- 業績(2019年4月1日から2020年3月31日)

藤江康彦(教授)

〈著書〉

Yasuhiko Fujie, Lesson Study, Yuto, Kitamura, Toshiyuki, Omomo, Masaaki, Katsuno (Eds.), *Education in Japan: A Comprehensive Analysis of Education Reforms and Practices*, Springer Singapore, 2019, Pp.105-123.

藤江康彦(編著),『これからの質的研究法:15の事例にみる学校教育実践研究』(秋田喜代美氏との共編),東京図書,2019,総ページ数294頁.

藤江康彦(編著),『学習指導案ガイダンス:看護教育を深める授業づくりの基本伝授』(池西静江氏,石束佳子氏との共編),医学書院,2019,総ページ数168頁.

藤江康彦(編著),『メタ言語能力を育てる文法授業:英語科と国語科の連携』(秋田喜代美氏,斎藤兆史氏との共編),ひつじ書房,2019,総ページ数304頁.

藤江康彦(単著),「教師の学習の契機としての小中一貫教育」東京大学教育学部教育ガバナンス研究会(編),『グローバル化時代の教育改革:教育の質保証とガバナンス』,東京大学出版会,2019, Pp.243-256.

藤江康彦(編著),『小中一貫教育をデザインする:カリキュラム・マネジメント52の疑問』,東洋館出版社,2019,総ページ数176頁.

〈一般論文〉

藤江康彦(単著)「教室での学びの質を高めるメタ言語能力の育成」『教育展望』2019年9月号,一般財団法人教育調査研究所,2019, Pp.12-18.

〈学会発表〉

藤江康彦(単著),「小中一貫校づくりにおける教師の学習:「越境」としての準備過程」,日本教育方法学会第55回大会(於:東海学園大学,名古屋市),2019年9月28日,日本教育方法学会第55回総会発表要旨,2019,78.

〈講演等〉

藤江康彦(企画・司会),「課題研究Ⅲ Research on Teachingとしての授業研究の可能性」(的場正美氏と共同企画,登壇者:サルカール アラニ モハメッド レザ氏,河野麻沙美氏),日本教育方法学会第55回大会(於:東海学園大学,名古屋市),2019年9月29日,日本教育方法学会第55回大会発表要旨,2019,136-139.

藤江康彦(招待講演),「学生の被教育経験を活かす教師教育:経験の語りから「教育実践」を再構

成する」,高校教学发展网络2019年年会(Chinese Higher Education Development network 2019)(於:東北師範大学,长春市:中華人民共和国),2019年9月21日.

藤江康彦(招待講演),「作为教师学习机会的课程整合:通过小中一贯制学校教师的教学经验(教師の学習の契機としてのカリキュラム統合:小中一貫校における教師のカリキュラム経験を通して)」,第17届上海国际课程论坛(17th Shanghai International Curriculum Forum)(於:華東師範大学,上海市:中華人民共和国),2019年11月2日.

藤江康彦(招待講演),「小中一貫教育の充実による質の高い学校教育の実現」,第14回小中一貫教育全国サミットin堺(於:ホテル・アゴーラリージェンシー大阪堺,堺市),2019年11月8日.

浅井幸子(准教授)

〈著書・共著〉

汐見稔幸・大豆生田啓友・武藤隆編著『保育原理』ミネルヴァ書房,2019年4月。(第9章「保育の歴史から何を学ぶか」151-174頁.)

秋田喜代美・藤江康彦編『これからの質的研究法』東京図書,2019年4月。(第15章「学校改革・学校づくりの経験をナラティブ探究で解明する—A小学校の学校づくりの事例を中心に」273-290頁.)

北村友人・佐藤真久・佐藤学『SDGs時代の教育—すべての人に質の高い学びの機会を』学文社,2019年4月。(浅井幸子・有間梨絵「9章ジェンダー」150-161頁.)

秋田喜代美監修・東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター編著『保育学用語辞典』中央法規,2019年12月。(浅井幸子・福元真由美編著「思想・歴史」253-324頁.)

〈論文・単著〉

浅井幸子「評価への「抗体」としてのドキュメンテーション:価値・意味生成・翻訳」『教育学研究』第86巻第2号,2019年6月,249-261頁.

浅井幸子「保育評価のオルタナティブ:ドキュメンテーションの思想」『教育目標・評価学会紀要』第29号,2019年12月,7-16頁.

〈論文・共著〉

Kodama, R., Ohta, M. and Asai, S. "Transitions from Preschool to Primary School Education in Japan", *Ochanomizu University Studies in Arts and Culture*, Vol.16. pp.183-195.

〈学会発表〉

(自主シンポジウム) 浅井幸子・楠瑞希子・太田素子・小玉亮子「保育記録の系譜—子ども研究と新教育の国際的展開」日本保育学会第72回大会, 2019年5月5日, 大妻女子大学。

(自主シンポジウム) Mikiko TABU, Sachiko ASAI, Ryoko KODAMA, Motoko OHTA, Katsumi YUKAWA and Fumiko TAKATA, What is “quality transition”? Examination of transition from early childhood education to primary education from a historical perspective, World Education Research Association 2019: Focal Meeting in Tokyo, 08/ Aug/ 2019, Gakushuin University, Japan.

(研究発表) Sachiko ASAI, Yuko KANETA, Yoshiko KITADA, YUKI KURODA, Jiwon SHIN, Kumiko TAMAKI and Kazue MOCHIZUKI, How to Deal with Early Career Teachers' Vulnerability?, World Education Research Association 2019: Focal Meeting in Tokyo, 08/ Aug/ 2019, Gakushuin University, Japan.

(研究発表) Sachiko ASAI, Ryoko KODAMA, Motoko OHTA, Two types of the transition from preschool education to primary school education in Japan, EECERA ANNUAL CONFERENCE, Thessaloniki, Greece 20th - 23rd August 2019.

(シンポジウム) 浅井幸子『『赤い鳥』と生活綴方における子どもの構築—文化の創り手としての子ども—』シンポジウム「子どもの遊びが生まれるとき—よみがえれ, 文化の力—」幼児教育史学会第15回大会, 2019年12月6日, 於白梅学園大学・白梅学園短期大学。

〈その他〉

(コラム) 浅井幸子「子どもの権利条約における子どもの見方」『日本保育学会会報』2020年1月, 3-4頁。

(図書紹介) 浅井幸子「土屋敦・野々村淑子編著『孤児と救済のエポック—六〜二〇世紀にみる子ども・家庭規範の多層性—』『教育学研究』87巻1号, 2020年, 137-138頁。

(科研報告書) 太田素子編『スウェーデンの社会と幼児教育』科学研究費補助金(基盤 B) 17H02670「プロジェクト・アプローチの展開とその教育思想—日欧の幼児教育における革新の系譜」報告書。(浅井幸子「ソールグレンタン幼児学校」[「スカルブネックの保育者を訪ねて」「運動とネットワーク」]。)

教育内容開発コース

北村友人(准教授)

〈共編著〉

北村友人・佐藤真久・佐藤学編『SDGs時代の教育—すべての人に質の高い学びの機会を—』学文社, 2019年4月。

〈分担執筆〉

北村友人「学力観をめぐる国際的な議論の潮流—国際機関を中心に—」東京大学教育学部教育ガバナンス研究会編『グローバル時代の教育改革—教育の質保証とガバナンス—』東京大学出版会, 2019年8月, 19-31頁。

Sachi Edwards and Yuto Kitamura, “Knowledge Diplomacy and Worldview Diversity Education: Applications for an Internationalized Higher Education” in Neubauer, D. E., Mok, K. H. and Edwards, S. (eds.). *Contesting Globalization and Internationalization of Higher Education: Discourse and Responses in the Asia Pacific Region*. Cham, Switzerland: Springer Nature, 2019, pp.143-161.

荒川奈緒子・北村友人「国際機関を通じた国際教育協力—効果的・効率的な連携の模索—」萱島信子・黒田一雄編『日本の国際教育協力—歴史と展望—』東京大学出版会, 2019年9月, 273-306頁。

Jing Liu and Yuto Kitamura, “The Role of Universities in Promoting Sustainability in Asia” in Zhong, Z., Coates, H. and Shi, J. (eds.). *Innovations in Asian Higher Education*. Oxon, UK: Routledge, 2019, pp.64-75.

北村友人・梅宮直樹・大澤亜希「カンボジアの大学教授職の現状と課題」有本章編『大学教授職の国際比較—世界・アジア・日本—』東信堂, 2020年2月, 181-194頁。

〈論文〉

Ulf Fredriksson, Kanako N. Kusanagi, Petros Gougoulakis, Yuka Matsuda, and Yuto Kitamura, “A Comparative Study of Curriculums for Education for Sustainable Development (ESD) in Sweden and Japan,” *Sustainability*, Vol.12, No.3, 2020, pp.1-16.

学校開発政策コース

勝野正章(教授)

〈著書〉

〈共著〉

勝野正章・村上祐介『新訂 教育行政と学校経営』放送大学教育振興会, 2020年3月, 283p.

《分担執筆》

勝野正章「第15章 教職の専門職性」北村友人・佐藤真久・佐藤学編著『SDGs時代の教育 すべての人に質の高い学びの機会を』学文社, 2019年4月, pp.226-234.

勝野正章・木場裕紀・津田昌宏・福嶋尚子・盛藤陽子「第8章 学力向上の取り組み・施策と全国学力調査に対する教員の意識」東京大学教育学部教育ガバナンス研究会編『グローバル化時代の教育改革 教育の質保証とガバナンス』東京大学出版会, 2019年8月, pp.129-142.

《雑誌論文》

勝野正章「副校長・教頭がフレッシュであり続けるために」学校運営(全国公立学校教頭会編集・発行) No.693 2019年4月号, pp.8-11.

勝野正章「学校は「子供の貧困」対策のプラットフォームになりうるのか」日本教育政策学会年報, 第26号『「不当な支配」と「公正な民意」』, 2019年7月, pp.100-108.

Katsuno, M. How do teacher evaluation practices affect school leadership in Japan? 日英教育学会『日英教育研究フォーラム The Japan-UK Education Forum』第23号, 2019年8月, pp.43-58.

勝野正章「課程認定行政の問題点と改革の方向性」日本教師教育学会年報, 第28号『開放制の教員養成を考える』, 2019年9月, pp.42-49.

勝野正章「令和教育の展望～新しい時代に向けて～」学校運営(全国公立学校教頭会編集・発行) No.698 2019年9月号, pp.8-11.

勝野正章「副校長・教頭の健康と仕事」学校運営(全国公立学校教頭会編集・発行) No.700 2019年10月号, pp.8-11.

勝野正章「ILO/ユネスコ『教員の地位に関する勧告』の意義とCEARTの役割」法と民主主義(日本民主法律家協会) No.542 2019年10月号, pp.22-24.

勝野正章「改めて、教員の『働き方改革』を考える」学校運営(全国公立学校教頭会編集・発行) No.704 2020年3月号, pp.8-11.

《学会発表》

Katsuno, M. Fostering Citizens Inside and Outside the School. The 2019 International Forum on Civic Education for Realizing Democratic Values, University of Seoul. 22 June 2019.

村上祐介(准教授)

《著書》

勝野正章・村上祐介編著『新訂 教育行政と学校経営』, (担当:編著, 範囲:第1-3, 5-7章), 放送大学教育振興会, 2020, 総頁数290

青木栄一編著『教育制度を支える教育行政』, (担当:分担執筆, 範囲:144-160頁(第11章「地方教育政治」)), ミネルヴァ書房, 2019, 総頁数284

東京大学教育学部教育ガバナンス研究会編『グローバル化時代の教育改革—教育の質保証とガバナンス』, (担当:分担執筆, 範囲:115-127頁(「地方自治体における教育のガバナンス改革」を担当(佐々木織恵, 高木加奈絵, 澤田俊也と共著))), 東京大学出版会, 2019, 総頁数304

秋田喜代美監修, 遠藤利彦, 渡辺はま, 多賀巖太郎編著『乳幼児の発達と保育—食べる・眠る・遊ぶ・繋がる—』, (担当:分担執筆, 範囲:185-195頁(「政策で繋がる」)を担当), 2019, 朝倉書店, 総頁数232

秋田喜代美監修, 東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター編著『保育学用語辞典』, (担当:分担執筆, 範囲:「日本国憲法」「教育基本法」「学校教育法」「児童福祉法」「社会福祉法」「私立学校法」「認定こども園法」「幼稚園設置基準」「保育所の設備及び運営に関する基準」「児童福祉施設の整備及び運営に関する基準」「認定こども園の国の基準」), 2019, 中央法規出版, 総頁数435

《論文》

佐々木織恵, 阿部慶徳, 村上祐介「自治体における取り組みが幼児教育の質の向上に与える影響:幼児教育の一元化と幼児教育センターの役割に着目して」東京大学大学院教育学研究科教育行政学論叢(39), 87-97頁, 2019

《その他》

「教育政策のこれからを考える」(インタビュー), 『月刊「潮」』2019年4月号, 136-140頁
「教育行政における地方自治と未来」, 『自治実務セミナー』2019年7月号, 16-17頁

小学校に広がる謎ルール「スタンダード」とは何か～教員と子どもを縛る教育システム

2020年3月, 『情報・知識&オピニオン imidas』(<https://imidas.jp/jjikkaitai/F-40-192-20-03-G797>)

「課題研究 教員の働き方改革と教職の専門職性」, 『教育学研究』87巻1号, 64-90頁, 2020年3月

〈講演・口頭発表等〉

村上祐介, 小玉重夫「自治体における保育の質保証とその政治・行政要因—全国自治体調査の結果から—」, 2019年度日本政治学会研究大会, 2019年10月5日

橋野 晶 寛 (准教授)

〈論文〉

橋野晶寛, 「教育経済学—教育学研究者はどこに「経済学」を見出し、向き合うのか」『教育学年報』11号, 2020, pp.339-362.

橋野晶寛, 「教員・学校評価におけるSGPモデルの方法的検討」『東京大学大学院教育学研究科紀要』59巻, 2020, pp.261-272.

〈学会発表〉

橋野晶寛・川上泰彦 (学会発表), 「教員の勤務状況と心身の健康の関係」日本教育行政学会第54回大会, 2019年10月19日.

〈その他〉

橋野晶寛 (講演), 「教育経済学と因果推論—「教育」の側から見た意義と論点—」広島大学高等教育研究開発センター, 2019年12月16日.

橋野晶寛, 「頻出教育調査の動向: 人事行政調査②懲戒処分」『教職研修』2019年4月号, 2019, p.127.

橋野晶寛, 「頻出教育調査の動向: 人事行政調査③育児休業・介護休暇」『教職研修』2019年5月号, 2019, p.127.

橋野晶寛, 「頻出教育調査の動向: 学校基本調査」『教職研修』2019年6月号, 2019, p.127.

橋野晶寛, 「頻出教育調査の動向: 生徒指導上の諸課題に関する調査①いじめ」『教職研修』2019年7月号, 2019, p.127.

橋野晶寛, 「頻出教育調査の動向: 生徒指導上の諸課題に関する調査②不登校」『教職研修』2019年8月号, 2019, p.127.

橋野晶寛, 「頻出教育調査の動向: 学校保健統計調査」『教職研修』2019年9月号, 2019, p.127.

学校教育高度化・効果検証センター

草 彌 佳奈子 (助教)

〈著書〉

草彌佳奈子 (共著), 「第18章 海洋教育と社会的学習」北村友人・佐藤真久・佐藤学編著, 『SDGs時代の教育—すべての人に質の高い学びの機会を』学文社, 2019, 260-271.

Tsuneyoshi, R., Sugita, H., Kusanagi, K. N., & Takahashi, F. (Eds.), *The Japanese Educational Model of Holistic Education: TOKKATSU*, World Scientific, 2019, 327.

〈雑誌論文〉

Fredriksson, U., Kusanagi, K. N., Gougoulakis, P., Matsuda, Y., and Kitamura, Y. "A Comparative Study of Curriculums for Education for Sustainable Development (ESD) in Sweden and Japan", *Sustainability*, 12(3), 2020, 1123.

Kusanagi, K. N. "Education for Sustainable Development and the Implementation of "Tokkatsu" in Indonesia", *International Conference on Social Studies and Environmental Issues (ICOSSEI 2019)*, Atlantis Press, 70-75, 2020

草彌佳奈子 (単著) 「インドネシアの人格教育と日本の特別活動への関心: バンドン市における小学校の実践を事例に」『東京大学大学院教育学研究科附属学校教育高度化・効果検証センター研究紀要』4, 127-134, 2019

草彌佳奈子・タタン・スラトノ (共著), 「子どもの学びを中心とした授業研究と学びの共同体づくり—インドネシアY学園における特別活動を通じた教師の同僚性構築の試み—」, 『東京未来大学研究紀要』14, 63-68, 2020.

〈学会発表〉

Kusanagi, K. N. "What Makes Professional Learning Communities to Sustain?: A Comparative Study of Lesson Study Communities in Japan and Indonesia", *World Education Research Association 2019 Focal Meeting in Tokyo*, Gakushuin University, August 8, 2019.

Kusanagi, K. N. (Invited Keynote) "Education for Sustainable Development and the Implementation of "Tokkatsu" in Indonesia", *International Conference on Social Studies and Environmental Issues (ICOSSEI 2019)*, Universitas Negeri Malang, September 19, 2019.

Kusanagi, K. N. "Building School as Learning Community through Lesson Study Plus Tokkatsu", *The 7th International Conference of School as Learning Community: Inquiry and Collaboration Both at Classroom and Staff Room*, IMPACT Forum, Bangkok, October 17, 2019.

Kusanagi, K. N. (Invited Plenary) "Tokkatsu Approach for Authentic Learning Experience of Students in the Era of

SDGs,” *The Tenth International Conference on Lesson Study*, Universitas Negeri, Padang, November 7, 2019.

〈講演等〉

Kusanagi, K. N. (Invited Speech) “Lesson study as education for the 21st century learning”, Workshop: Increasing the quality of lesson study-based research for teachers and lecturers, Hamzanwadi University, May 2, 2019.

Kusanagi, K. N. (Invited Speech) “Lesson study for professional development in the 21st century”, Workshop: Increasing teacher professionalism through lesson study, Khairun University, May 5, 2019.

Kusanagi, K. N. (Invited Speech) “How to create student learning for lesson study as learning community”, Ganesha University of Education, May 7, 2019.

Kusanagi, K. N. (Invited Speech) “Recontextualization of Lesson Study in Java”, Brown Bag Event, the Faculty of Education, University of Cambridge, July 31, 2019.

Kusanagi, K. N. (Invited Speech) “Lesson Study In Indonesia: Development and challenges”, Kendiri National Seminar HAYATI VII 2019, Universitas Nusantara PGRI Kediri, September 21, 2019.

バリアフリー教育開発研究センター

飯野 由里子 (特任助教)

〈著書〉

飯野由里子・菊地夏野・堀江有里編『クリア・スターディーズをひらく1——アイデンティティ、コミュニティ、スペース』晃洋書房, 2019年(共編), 全262頁。

〈雑誌論文〉

飯野由里子『『省略』に抗う—障害者の性の権利と交差性』『思想』No. 1151, 2020年, pp. 52-69.

飯野由里子『『思いやり』を超えて—合理的配慮に関わるコンプライアンスの新たな理解』『現代思想』No. 47-13, 2019年, pp. 153-162.

飯野由里子『トランスジェンダー差別がフェミニズムの問題でもある理由』『私たちの21世紀』98号, 2019年, pp. 37-40.

発達保育実践政策学センター

野澤 祥子 (准教授)

〈著書〉

野澤祥子 2019 家庭における子どもの食 秋田喜代美 (監修) 遠藤利彦・渡辺はま・多賀巖太郎 (編

著) 乳幼児の発達と保育—食べる・眠る・遊ぶ・繋がる— 朝倉書店

井庭崇・秋田喜代美 (編著) 野澤祥子・天野美和子・宮田まり子 (著) 2019 園づくりのことは: 保育をつなぐミドルリーダーの秘訣 丸善出版

野澤祥子 2019 知能・思考の生涯発達: 目の前の課題を考え続ける 西村純一・平野真理 (編) 生涯発達心理学 ナカニシヤ出版 pp.57-67

〈学術論文〉

野澤祥子 2019 乳幼児・児童期の発達研究の動向と展望—社会的文脈に着目して 教育心理学年報第58巻 pp.1-15

秋田喜代美・野澤祥子・堀田由加里・若林陽子 2020 保育におけるデジタルメディアに関する研究の展望 東京大学大学院教育学研究科紀要 東京大学大学院教育学研究科紀要(59), 347-372.

天野美和子・野澤祥子・宮田まり子・秋田喜代美 2020 「ミドルリーダー・パターン」を用いた主任保育者研修の検討. 東京大学大学院教育学研究科紀要(59), 449-465.

〈学会発表〉

野澤祥子・天野美和子・宮田まり子 2019. ミドルリーダー・パターンを用いた主任研修の検討(1)—理論的検討—日本保育学会第72回大会

淀川裕美・野澤祥子 2019 地域における子どもにとって愛着のある場の分析—拡張された園庭としての公園に着目して②— 日本保育学会第72回大会

堀田由加里・秋田喜代美・野澤祥子 2019 保育施設におけるデジタルメディアを活用した遊びの特性 日本保育学会第72回大会.

Nozawa, S., Yodogawa, Y., Takahashi, M., Endo, T., & Akita, K. 2019 Sleep practices in early childhood education and care in Japan: From the practitioners' perspectives. EECERA 29th Conference.

Miyata, M., Yodogawa, Y. & Nozawa, S. 2019. What do children feel attached to in of outdoor walk environment? EECERA 29th Conference.

Yodogawa, Y., Miyata, M. & Nozawa, S. 2019. How do they construct collaborative relationship?: a case study of Japanese ECEC center and community's continual collaboration.. EECERA 29th Conference.

Yuan Lin, Yuki Obuchi, Xueting Wang, Toshihiko Yamasaki, Satoshi Toriumi, Mikihisa Hayashi, Sachiko Nozawa, Midori Takahashi, Toshihiko Endo and

- Kiyomi Akita. Human Tracking for Children Behavior Analysis in Nursery Schools. The 15th International Conference on SIGNAL IMAGE TECHNOLOGY and INTERNET BASED SYSTEMS (SITIS), pp. 209-216, Sorrento (NA), Italy, 26-29 November, 2019.
- 野澤祥子・淀川裕美・高橋翠・遠藤利彦 2019 保育の場における午睡の実態と保育者の認識の分析—午睡に関する負担と研修に焦点を当てて— 日本乳幼児教育学会第72回大会ポスター発表
- 淀川裕美・野澤祥子 (2019) 地域における子どもにとって愛着のある場の分析—拡張された園庭としての公園に着目して②—, 日本保育学会第72回大会ポスター発表
- 大久保圭介・真田美恵子・李知苑・岡部悟志・高岡純子・唐音啓・小崎恭弘・島津明人・野澤祥子・遠藤利彦・秋田喜代美 2020 乳幼児の生活と育ちに関する縦断調査 2019(1)—低出生体重児の自己制御の芽生えとその規定因について 日本発達心理学会第31回大会ポスター発表
- 真田美恵子・李知苑・岡部悟志・高岡純子・大久保圭介・唐音啓・小崎恭弘・島津明人・野澤祥子・遠藤利彦・秋田喜代美 2020 乳幼児の生活と育ちに関する縦断調査 2019(2)—子育てに対する母親のアンビバレントな感情と養育行動に関する検討 日本発達心理学会第31回大会ポスター発表
- 唐音啓・真田美恵子・李知苑・岡部悟志・高岡純子・大久保圭介・小崎恭弘・島津明人・野澤祥子・遠藤利彦・秋田喜代美 2020 乳幼児の生活と育ちに関する縦断調査 2019(3)—周囲のサポートが育児肯定感と子どもの協調性との関連に与える影響の日本発達心理学会第31回大会ポスター発表
- 野澤祥子・真田美恵子・李知苑・岡部悟志・高岡純子・大久保圭介・唐音啓・小崎恭弘・島津明人・遠藤利彦・秋田喜代美 2020 乳幼児の生活と育ちに関する縦断調査 2019(4)—父母のネガティブな養育行動の相互関連性に関する検討 日本発達心理学会第31回大会ポスター発表

淀川裕美 (特任准教授)

〈著書〉

- 淀川裕美 2019 第1章 食べる 1.1 保育における子どもの食, 秋田喜代美監修, 遠藤利彦・渡辺はま・多賀徹太郎編著『乳幼児の発達と保育』, 朝倉書店. (分担執筆)
- 秋田喜代美監修・東京大学大学院教育学研究科附

属発達保育実践政策学センター編著 2019 『保育学用語辞典』, 中法法規出版. (【保育実践】章の概要, 「分散型リーダーシップ」「ハイブリッド・リーダーシップ」「教育・学びのリーダーシップ」「OECDの保育の質に関する表」「構造の質」「実施運営の質」「モニタリング」「トランジション」「保育の質評価スケール」「ECCE/ ECEC」の用語を執筆)

〈雑誌論文〉

- 淀川裕美 2019 5歳児の園における食事の課題に関する分析—園児の描画及びインタビューと保育者のインタビューから—, 『保育学研究』第57巻第2号, pp.43-54. (査読有)
- 淀川裕美 2019 保育におけるグローバルとローカルの関係性について (保育フォーラム「保育学の研究方法論を考える(3)国際比較研究～これからのグローバル・ガバナンスを考える～」), 『保育学研究』第57巻第3号, pp.106-108. (招待有)
- 淀川裕美 2020 地域開放の「第三の空間 (Tredje Rummet) —スウェーデンにおける新たな物語り (2) (特集「保育の新たな物語り」)』『発達』第162号, pp.41-45. (招待有)
- 淀川裕美・箕輪潤子・門田理世・秋田喜代美 2020 園内研修における保育者の学びの構造化に関する試み～心に残った・保育への理解が深まった発言に着目して～『東京大学大学院教育学研究科紀要』第59号, pp.485-516.

〈調査報告書〉

- 東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター 2020 文部科学省委託「幼児教育の質向上のための評価実施支援事業」報告書「公開保育を活用した幼児教育の質向上システム (ECEQ) の質的検証～園の独自性と多様性を尊重した効果的な学校評価の検討～」, 文部科学省委託「幼児教育の質向上のための評価実施支援事業」.
- 淀川裕美・酒井治子・林薫・志賀口大輔・渡邊高幸・會退友美・池谷真梨子・伊藤優 2020 低年齢児の食事場面での保育者の援助と環境構成に関する研究, 『保育科学研究』第10巻, pp.46-66.

〈学会発表〉

- 淀川裕美 2019 食事場面におけるコミュニケーション—子どもたちの楽しい食事を支える保育者のかかわり—, 日本保育学会第72回大会 (自主シンポジウム: 2019年5月5日).
- 宮田まり子・淀川裕美 2019 地域における子どもにとって愛着のある場の分析—拡張された園庭と

しての公園に着目して①, 日本保育学会第72会大会 (ポスター発表: 2019年5月5日).

淀川裕美・野澤祥子 2019 地域における子どもにとって愛着のある場の分析—拡張された園庭としての公園に着目して②, 日本保育学会第72会大会 (ポスター発表: 2019年5月5日) .

Yodogawa, Y., & Minowa, J. 2019 What kinds of dialogue impresses ECEC practitioners during meeting with colleagues? : an exploratory analysis on effective in-service professional development(1), 20th PECERA Conference (poster presentation: July 13th, 2019)

Minowa, J. & Yodogawa, Y. 2019 What kinds of dialogue impresses ECEC practitioners during meeting with colleagues? : an exploratory analysis on effective in-service professional development(2), 20th PECERA Conference (poster presentation: July 13th, 2019)

Yodogawa, Y., Miyata, M. & Nozawa, S. 2019 How do they construct collaborative relationship?: A case study of Japanese ECEC center and community's continual collaboration., 29th EECERA Conference (paper presentation: August 21st, 2019)

Nozawa, S., Yodogawa, Y., Takahashi, M., Endo, T., & Akita, K. 2019 Sleep practices in early childhood education and care in Japan: From the practitioners' perspectives. EECERA 29th Conference.

Miyata, M., Yodogawa, Y. & Nozawa, S. 2019. What do children feel attached to in of outdoor walk environment? EECERA 29th Conference.

淀川裕美 2019 乳児保育における食事の実態と保育者の認識, 日本乳幼児教育学会第29回大会 (口頭発表: 2019年12月8日)

淀川裕美 2019 子どもの食の体験を支える施設長・主任の役割, 日本乳幼児教育学会第29回大会 (自主シンポジウム: 2019年12月8日)

淀川裕美・箕輪潤子・門田理世・秋田喜代美・野口隆子・上田敏丈・中坪史典・森暢子・芦田宏・鈴木正敏・椋田善之・小田豊 2020 園内研修における学びの構造化に関する試み(1)〜心に残った発言・研修が活発になった発言に着目して〜, 日本発達心理学会第31回大会 (ポスター発表: 2020年3月4日不参加発表)

佐々木 織 恵 (特任助教)

〈著書〉

村上祐介・佐々木織恵・高木加奈絵・澤田俊也 (編

著)「第7章 地方自治体における教育のガバナンス改革—市区町村への全国調査の結果から—」東京大学教育学部教育ガバナンス研究会編『グローバル化時代の教育改革—教育の質保証とガバナンス—』東京大学出版会, 2019, 総頁数304.

〈雑誌論文〉

佐々木織恵 (単著)「学校自己評価が教師間の協働に果たす効果と過程に関する実証的研究—目標管理の機能に着目して—」東京大学大学院博士論文, 2020.

佐々木織恵・阿部慶徳・村上祐介 (共著)「自治体における取り組みが幼児教育の質の向上に与える影響—幼児教育の一元化と幼児教育センターの役割に着目して—」『東京大学大学院教育学研究科教育行政学論叢』第39号, 2019, 87-97頁.

〈学会発表〉

天野美和子・高島裕美・斉藤丈彦・山上真智子・高尾美咲・渡邊俊・佐々木織恵「自主シンポジウム 幼児教育アドバイザーに期待される今後の取組について考える」『乳幼児教育学会』東北文教大学短期大学部, 2019年12月.

SASAKI Ori, Fukuhata Shinji An examination of the construction of PLC (Professional Learning Community): A Japanese Case Study, WERA (World Education Research Association) 2019 Conference, Tokyo, August 2019.

佐々木織恵「幼稚園、保育所における自己評価の政策内容と実践に関する比較研究」『日本教育政策学会第26回』秋田大学, 2019年7月.

佐々木織恵・天野美和子「幼児教育アドバイザー政策の実践と成果に関する考察—質問紙及びインタビュー調査の結果から—」『日本保育学会第72回』大妻女子大学, 2019年5月.

西 田 季 里 (特任助教)

〈著書〉

東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター (分担執筆), 『保育学用語辞典』, 中央法規出版, 2019, 総頁数435.

〈学会発表〉

Kiri NISHIDA (学会発表), "Prosocial behavior of 4-6 year old children with peers: The effects of the scenes and periods", EECERA2019 poster presentation, 2019.

西田季里 (学会発表), 「園児のニーズに合わない向

社会的行動の受容と理由付け—子どもの行動尺度 (CBS), 役割取得, ニーズに合わない向社会的行動受容場面インタビューの関連」, 日本発達心理学会第31回大会ポスター発表, 2020.

天野美和子 (特任助教)

〈著書〉

天野美和子 (共著), 『園づくりのこぼれ—保育をつなぐミドルリーダーの秘訣—』(編著: 井庭崇氏・秋田喜代美氏, 野澤祥子氏・宮田まり子氏との共著), 丸善出版, 2019, 総頁数120.

天野美和子 (共著), 『乳幼児の発達と保育—食べる・眠る・遊ぶ・繋がる—』(監修: 秋田喜代美氏), 「4.2 対話で繋がる」を執筆, 朝倉書店, 2019, 総ページ数219.

天野美和子 (共著), 『保育用語辞典』(監修: 秋田喜代美氏), 「子どもの主体性の尊重」, 「環境を通しての保育」, 「直接体験の重視」, 「個に応じた保育」の用語について執筆, 中央法規, 2019, 総頁数435.

〈雑誌論文〉

天野美和子^{筆頭著者} (共著), 「ミドルリーダー・パターン」を用いた主任保育者研修の検討, (野澤祥子氏, 宮田まり子氏, 秋田喜代美氏との共著)『東京大学大学院教育学研究科紀要』第59巻, 2019, pp.449-465.

天野美和子 (共著), 保幼小連携の取り組みに対する保育者と小学校教諭の振り返りにみられる特徴—取り組みに影響を与える要因とは何か—, (一前春子氏^{筆頭著者}), 秋田喜代美氏との共著)『国際幼児教育研究』(26), 2019, pp.39-50.

〈学会発表〉

天野美和子 (共著), 幼児教育アドバイザー政策の実践と成果に関する考察—質問紙及びインタビュー調査の結果から—, (佐々木織恵氏^{筆頭著者})との共著), 日本保育学会第72回大会口頭発表.

天野美和子 (共著), ミドルリーダー・パターンを用いた主任研修の検討(1)—理論的検討—, (野澤祥子氏^{筆頭著者}・宮田まり子氏・秋田喜代美氏との共著), 日本保育学会第72回大会口頭発表.

天野美和子^{筆頭著者} (共著), ミドルリーダー・パターンを用いた主任研修の検討(2)—活用と実践—, (秋田喜代美氏との共著), 日本保育学会第72回大会口頭発表.

天野美和子 (単著), 幼児期の子どもを対象とした

哲学対話実践の考察, 日本質的心理学会第16回大会ポスター発表.

〈その他〉

天野美和子 (単著), 国際幼児教育学会 2019年学術賞, 保育所における職場体験の中学生に対する幼児の態度・行動の検討: 5歳児クラスの幼児と中学生とのエピソードの分析」国際幼児教育研究(25), pp.31-44.

天野美和子 (共著), (公財) 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構・東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター「公開保育を活用した幼児教育の質向上システム (ECEQ)」の質的検証—園の独自性や多様性を尊重した効果的な学校評価の検討—, 令和元年度 文部科学省委託調査の報告書.

新屋裕太 (特任助教)

〈著書〉

新屋裕太 (共著) 「第3章 遊ぶ『泣く』」, 秋田喜代美 (監修), 遠藤利彦・渡辺はま・多賀殿太郎 (編著) 『乳幼児の発達と保育—食べる・眠る・遊ぶ・繋がる』朝倉書店, 2019, 総頁数15

新屋裕太 (共著) 「身体・運動発達」, 発達保育実践政策学センター (編著) 『保育学用語辞典』中央法規出版, 2019, 総頁数5

〈雑誌論文〉

なし

海洋教育センター

日置光久 (特任教授)

〈著書〉

日置光久 (編著) 『湿地教育・海洋教育』(朝岡幸彦, 笹川孝一との共編著), 筑波書房, 2019, 総頁数152.

日置光久 (編著) 『海洋教育指導資料 学校における海の学びガイドブック【小・中学校編】』(及川幸彦, 川上真哉, 東京大学大学院附属海洋教育センターとの共編著), 大日本図書, 総頁数152.

日置光久 (編著) 『理科の見方・考え方を働かせて学びを深める理科の授業づくり』(星野昌治, 船尾聖, 関根正弘との共編著), 大日本図書, 2020, 総頁数160.